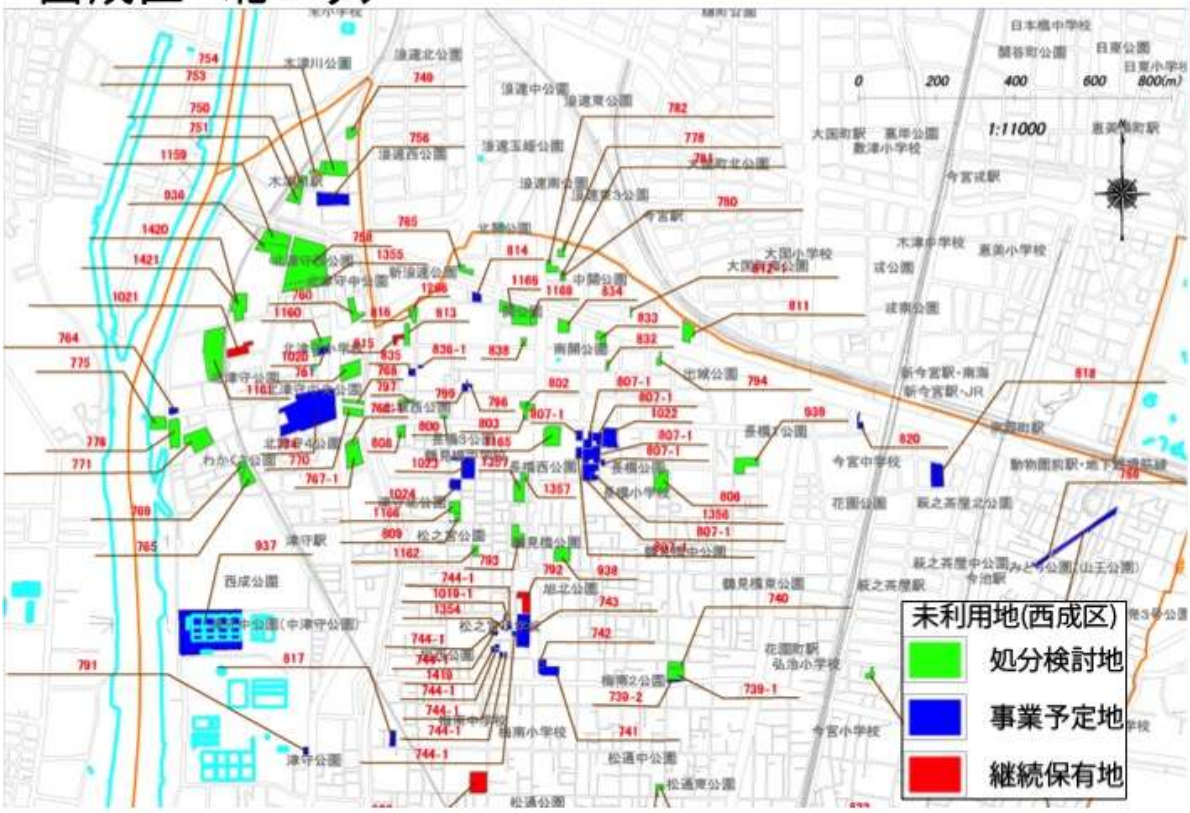
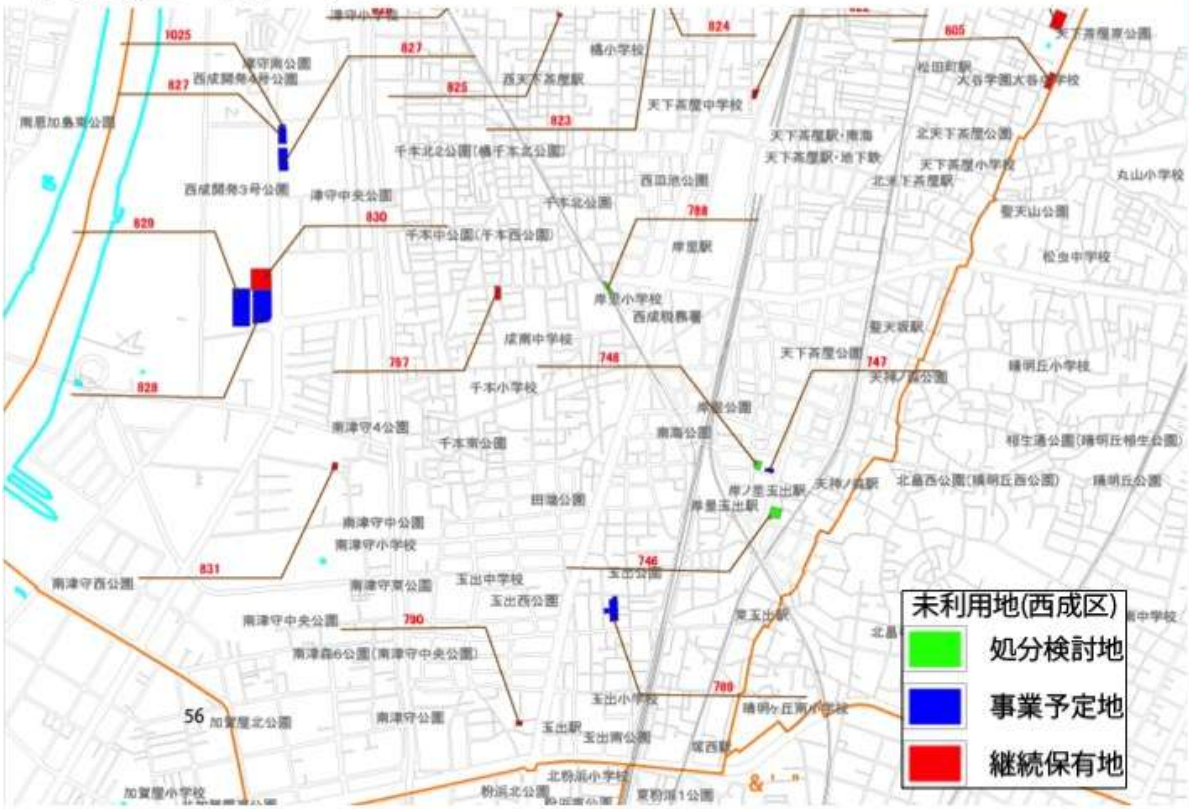
西成区　北エリア

未利用地の分布状況



西成区　南エリア

未利用地の分布状況



西成特区構想テーマ別シンポジウム「観光振興・地域資源活用について」　議事録

日　時　平成 26 年 2 月 3 日（月）　18 時 30 分から 20 時 45 分
場　所　西成区役所　４階会議室

○司会　みなさま、こんばんは。ただいまから西成特区エリアマネジメント協議会の専門部会シンポジウムを開催させていただきます。今日のテーマは、観光振興、それから地域資源活用専門部会ということで、詳しくは後ほどご説明させていただきますが、このテーマについて開催させていただきます。

はじめに、司会をつとめさせていただきますこのエリアマネジメント協議会の運営支援を行っておりますＣＡＳＥまちづくり研究所の天野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、はじめに開会といたしまして、西成区を代表致しまして区長の方からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○臣永西成区長　みなさんこんばんは。なかなか出にくい時間にお越しいただきまして本当にありがとうございます。西成特区構想は、今年度から本格的な取り組みということでやっております。前回は特区構想という、一本のテーマでお話しをさせていただきましたけども、今回は３つの分野に絞って御議論いただけたらと思っております。有識者の先生方に御議論いただいたあとで、またさらに、テーマを絞って専門的なお話をいただき、議論を深めて、西成区をより良いまちにするための方策を見つけていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。

○司会　ありがとうございました。そうしましたら、本日の出席者のご紹介からさせていただきます。まず、各専門部会の有識者として、さまざまなご意見をいただいております先生方からご紹介させていただきます。まずはじめに、学習院大学経済学部教授で大阪市特別顧問として務めておられます鈴木亘先生。

○鈴木顧問　鈴木です。よろしくお願いします。

○司会　続きまして、阪南大学国際観光学部教授、松村嘉久先生。

○松村教授　よろしくお願いします。

○司会　大阪市立大学都市研究プラザ教授、水内俊雄先生。

○水内教授　よろしくお願いします。

○司会　近畿大学建築学部准教授、寺川　政司先生です。

○寺川准教授　よろしくお願いします。

○司会　続きまして、西成区にまいります。先ほどご挨拶いただきました臣永区長です。

○臣永西成区長　改めまして、よろしくお願い致します。

○司会　総合企画担当課長の柴生課長です。

○柴生西成区役所総合企画担当課長　柴生でございます。どうぞよろしくお願いします。

○司会　地域支援担当課長の鎌田課長です。

○鎌田西成区役所地域支援担当課長　鎌田でございます。よろしくお願いします。

○司会　次に、大阪市の方から、観光政策担当課長の松下課長です。

○松下経済戦略局観光部観光施策担当課長　松下です。どうぞよろしくお願いいたします。

○司会　地域開発担当課長の中谷課長です。

○中谷都市計画局開発調整部地域開発担当課長　中谷でございます。どうぞよろしくお願いします。

○司会　それぞれの、専門部会で地域メンバーとしてご参加いただいております方々にもご出席いただいております。村井委員です。

○村井委員　村井でございます。よろしくお願いします。

○司会　続きまして、山田委員です。

○山田委員　山田です。
○司会　西口委員です。
○西口委員　西口です。よろしくお願いします。
○司会　最後に上田委員です。
○上田委員　上田です。
○司会　それでは、ご説明の方に入らせていただきたいと思います。前半は、各専門部会での検討内容をご紹介させていただき、後半は、ご出席いただいております方々も含めまして、色々ご意見いただけたらと思っております。はじめに、今回コーディネートとして寺川先生の方から今日のテーマの観光振興、地域資源活用以外の専門部会を含めた全体四つの専門部会の活動状況、検討状況の概要をご説明していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
○寺川准教授　みなさんこんばんは。近畿大学の寺川です。よろしくお願いします。まずは、せっかく鈴木先生がお見えになっているので、はじめに特区のシンポジウムのはじめの説明をお願いできますか。
○鈴木顧問　はい、まず、エリアマネジメント協議会というのは何なのかという説明を、冒頭にちょっとだけご説明をしたいと思います。

昨年度ですね、西成特区の有識者座談会を、ここにいらっしゃるメンバーを含めて座談会をやってまいりまして、その方向性を市長が一応、良といたしまして現在その具体化作業としてやっておるというわけですけども、その具体化するに当たってですね、専門家の先生と地域の方々に集まっていただきまして、その具体化を議論する場としてエリアマネジメント協議会という場を設けて、議論をしております。形式上は、これは区政会議の下にあるというものになっております。区政会議の下に、西成特区構想部会というのと、情報発信部会がありまして、西成特区構想部会というところに、10 名の区政会議の委員の方々が入ってらっしゃいます。ここに、色々テーマに分かれた議論を持ち寄って、またここで揉んでもらうという形で専門部会というのを組み立てております。

具体的にですね、どういう専門部会があるかというと、今日、発表していただきます観光振興専門部会、そして、これも今日一緒にご説明いただきます地域資源活用専門部会というものがあります。これらの他にですね、６日・７日に発表がございますけども、環境・福祉専門部会、こども・子育て専門部会というのがございまして、これらに関連するテーマをこれまで色々と議論してまいったわけです。そして、来年度も、まあ、来年度は市長がどうなるかわからないので、来年度というのはなかなか議論しにくいのですけども、来年度もこの議論はこのまま続くというつもりでやっております。それから、これ以外にもフレキシブルに専門部会というものは新たに立てていこうと思っておりまして、来年度、また別のテーマで議論しないといけないことがあったら、またそれは別に専門部会を立てるという具合にして、いろんなテーマに広げていこうという風に今考えております。

一言でいいますと、これらは何のためにやっておるのかといいますと、今までですね、どちらかというとあいりん関係の施策の場合には市の方で施策を立てて、そして予算化もして、決まりましたからよろしくお願いしますという形で、市民、区民の方々にご説明するということが多かったんですね。ま、開けてビックリ玉手箱ということで、地域の方々はそんなの聞いてないということで大騒ぎ、行政もおっかなびっくりで、大変な相互不信になるというケースが多かったのですが、そういうやり方はもうやめようと言うことです。このまちづくりなり、この地域にいろんな施策を打つにあたっては、まちの方々と一緒に考える、行政も一緒に考えて、まだ決まってない段階で、侃々諤々やりながら、施策を決めていこうと、そういう場としてこのエリアマネジメント協議会というものを作っているわけでございます。さすがに住民全員で議論というわけにはいかないので、専門家の方々、地域の代表の方々に集まっていただきまして議論していただいているわけですけども、その中でまた、まとまった段階でこういう形で皆様方からご意見をいただいてフィードバックしていくという形を考えておりますので、今日は是非、色々意見交換をさせていただきたいと思います。

色々意見を言っていただけたらと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○寺川准教授　どうもありがとうございました。今回のシンポジウムは観光振興専門部会、それから地域資源活用専門部会という２つのテーマの部会報告になります。あとで、会場の方にも意見交換をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

まず、各専門部会がどのようなテーマで議論を行ってきたのかお伝えしたいと思います。私の役割は、西成特区のエリアマネジメント協議会という専門部会のコーディネート支援をさせていただいていますので、各部会でどういう事を行っているか、その調整も含めてお手伝いさせていただいているという立場でございます。

まず、環境・福祉専門部会ではどういう議論をしているかというと、テント・小屋掛けなどの平和的解決ということで、公園内の生活者に対する実態であるとか、意向調査をどういう風にしていけば良い検討ができるのだろうかということ、そして、不法投棄によるごみ問題について、地域のごみ問題、環境問題が非常にクローズアップされておりますので、具体的にどういう事が可能なのかということを検討しております。また、単身高齢者の生活保護受給者の社会的つながり事業やモデルケースについても、どのように事業としてやっていくのか等々ですね、具体的な事業の可能性とか仕組みの話など、そういうものを議論いただいている部会になります。

次に、こども・子育て専門部会について、特に今年度はプレーパークの設置を中心に議論されております。プレーパークの運営方法、実施場所、事例の紹介、などの議論が進んでおります。それから、小中一貫校の教育内容については別の会議で議論されていることになっておりますが、この専門部会においても、教育内容について、何が可能なのかというようなことについても少し議論していただいております。それから子どもの家事業については、地域包括事業について今後どのようなことを検討すべきかということなどなど、議論内容が多岐に渡っております。繰り返しますが、今年度はプレーパークが中心となっております。

観光振興専門部会は今から話があると思いますので、簡単にあげますと、ここにありますとおり、国際ゲストハウス、屋台村構想、看板設置等々の議論があります。のちほど、松村先生の方からお話をいただきたいと思います。

地域資源活用専門部会については、水内先生にご説明していただくとして、今、西成区にあります未利用地がどのように活用されているのかということや、環境・福祉専門部会、こども・子育て専門部会等の他部会が地域のストックをどう活用するか。など、非常に重要なテーマとなっております。地域にある色々な資源をどう活用するかということについて、地域の方々とともにというよりも、専門家の中でですね、事業の可能性や制度のあり方などに関して、本当に使えるのかどうかを検討しているところです。

それでは基調講演としまして、観光振興専門部会の有識者、専門家として参画いただいております松村先生からご報告いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○松村教授　阪南大学国際観光学部の松村と申します。私は実は太子 1 丁目で新今宮観光インフォメーションセンターを学生と一緒に開設しております。昨年は１４０日間くらい学生と一緒に地下鉄動物園前駅の上で観光客の行方を見守っていました。そのかたわら、観光振興専門部会に参加させていただいておりました。最初に、ごく簡単に昨年の太子１丁目あたりの状況を説明させていただきたいと思います。2011 年は、東日本大震災の影響で外国人観光客の宿泊数は落ち込んだんですけども、2012 年には回復しました。2013 年には実に驚くべき数字が出ました。太子 1 丁目に位置する 8 軒のゲストハウスで、のべ宿泊者数が、外国人のみで、12 万 2 千人、12 万 2 千泊でした。単純に言いまして、和歌山県全域の外国人宿泊者数をはるかに超えました。それがわずか半径 200～300m 位の範囲で起こりました。これも内実が色々ありまして、2012 年の 9 万 4 千泊から 2013 年は 12 万 2 千泊に上がったんですけども、これがどういう状況かというのを簡単に説明させていただきます。

太子の 1 丁目に立地しております 8 軒のゲストハウスの年間客室稼働率が 9 割を超えているところが数軒あります。これはホテル業界の常識では考えられないことです。ホテル業界の常識ではだ

いたい、8 割の半ばにいくと、これはもうすごいという話になります。９割を超えるというのは、ダブルブッキングすれすれ、ほぼ連日満杯の状態ということなんですね。一つ大きな変化が昨年は起こりました。タイとマレーシアから、ASEAN からくるお客さんが非常に増えました。これは、日本政府がタイとマレーシアのビザを緩和して、来やすくなったということもあるんですけども、彼らの行動には一つ大きな特徴があります。ファミリーで動いたり、グループや仲のいい友達たちで動くんですね。みなさんも家族旅行で行かれるときは、ホテルの宿泊予約は早めにされると思うんです。お父さんだけ別のホテルというわけにはいきませんので。ということで、太子１丁目にどういう事が起こっているかといいますと、予約サイトを海外向けに開けた瞬間、アジア系の方の予約がパパパパッと入ってきて、すぐ満杯になってもう泊まれない。実は夏がハイシーズンなんですけども、ハイシーズンは特に、外国人の方のなかでも、特にアジア系のグループの方が早く予約サイトで予約を入れられました。一方で、従来、このまちによく来られていた欧米系のバックパッカーというのは、予約が非常に遅いんですね。移動する前の日になって予約を入れようとする方々なんです。そこで欧米系のバックパッカーは予約を入れられない状況になって、私たちの観光案内所にもウォークインで来られて、どこか泊まれる宿を探してくださいとお願いされる方が増えました。その結果、これまであまり外国人旅行者を泊めたことのない、萩之茶屋地区であるとか、堺筋線沿い南の方のホテルへ流れて行っている状況です。実はこの 3 万泊近い増加が何から生まれたかというと、太子 1 丁目に位置しているホテルの稼働率が満杯状態に近いぎりぎりまで上がって 3 万泊増えた。それで、入り切らなかった外国人たちが、萩之茶屋地区に流れていった。それで、萩之茶屋地区に流れていったのが、欧米系の比較的ヘビーなバックパッカー、予約の遅い元気なバックパッカーが流れていったので、ある意味、すごく良い状況になっています。萩之茶屋地区の簡宿に聞きますと、最近は生活保護の方が 3 割、日雇い労働者の方が 3 割、観光客の方が 3 割ということで、そのうち、外国人が 1 割ぐらい来ていると。これは、近年なかったことです。今年、突然起こったことです。

そして、もう一つ、昨年大きな話がありました。東京オリンピックが 2020 年に開催されることが決まりました。新聞その他でも報じられておりますように、建設労働者の需要が非常に高まっており、おそらく今、あいりん地域で現役で頑張っていらっしゃる労働者の方々も、もう数年後、1 年か 2 年すると、東京の方に移って行かれると思われます。それと同時に、皆さん想像できないかもわかりませんけど、オリンピックが近づいてくると、西成に宿泊して、東京オリンピックを見に行く人が必ず出てきます。オリンピックのチケットというのは、本当に貴重で一枚プレミアムで持っているだけなんですね。おそらく非常に宿泊価格が上がると思われる東京に泊まって、その一枚のために 1 週間も東京に宿泊されるほどの財力はおそらくないと思います。北京オリンピックのときでも、天津であるとか、近隣のところに泊まって、オリンピック観戦の日だけ北京に行くという方がたくさんいました。ということで、おそらく、JR のフリーパスなどもありますんで、おそらくそれらを利用されて、自分が観戦する試合のチケットを握りしめて、遠方から新幹線などで東京に行かれる。その間は、関西などに滞在しての世界遺産をゆっくりとまわるという需要が絶対増える。私は確信しています。

もう一つ、生活保護の動向なんですけども、このまちで生活保護、路上から畳の上へという流れは、2000 年以降に出来てきました。それも、６５歳以上の高齢者の方を中心に始めていったという経緯があります。私の古くからの仲間も、一人、二人と消えていって、残念な思いをしています。2000 年ごろで 65 歳以上ということは、今、それから 14 年経っているので、79 歳以上になっておられます。悲しい話なんですけども、人間寿命がありますので、亡くなっておられます。社会的にそれを増やしていくのかというと、かなり厳しいことがあるのも事実です。このまちの、あいりん地域の簡宿を支えてきた 3 つの柱というのがあります。その３つの柱というのは、労働者、生活保護受給者、外国人を含めた観光客ですね。このうちの 2 本の柱がここ２，３年の間に崩れてきそうな予感がしているということと、逆に最後に残った 1 本の柱が非常に伸びる可能性が見えているとい

うことです。これらが、昨年1年で実感したことです。観光の世界では、もうだいぶ前に、20年近く前になるんですけども、石森秀三先生という有名な先生がいらして、アジア発の観光ビッグバンが起こると予言されました。アジアの経済力が高まりアジアの人たちが普通に旅行に出かけるようになると、人口規模が圧倒的なので、それが交流人口になって、アジア発の観光ビックバンが起こると言われました。私は、その予言の手ごたえを去年、ひしひしと感じました。だいたいあいりん地域というのは、社会が激動するときに、一番最初にぴゅんっと動く浮きみたいな存在なので、それを非常に感じた次第です。

さて、それを感じながら、観光振興専門部会の方で色々議論をしてきたんですけども、観光振興専門部会の方は、官民協働の中でどちらかというと、民の力が強く動ける分野かと思います。それで、主に議論してきたのは、屋台村構想、バスターミナル構想、商店街の利活用、簡易宿所の利活用、それと、アートプロジェクト、案内板の設置と、この6つの分野で議論してきました。一つ、確実に言えることがあるんですけども、日本社会そのものが間違いなく人口減社会に入っていきます。ほっといたら、絶対人口が減る時代に入ってきたんです。その時のための、まちのつくり、まちのあり方というのを考えなくてはいけない。これは別に市長が橋下市長であれ、誰であれ一緒です。人口減は変わらない。そのときの社会に合わせて新しいまちづくりを考えなければいけない。あいりん地域、むしろ西成区の太子1丁目あたりのことですね、あのあたりは、今風に言うと、交流人口ですね、ずっと労働人口、日雇い労働者というのは外から来られて、帰って行かれて、行っては戻り、行っては戻り、まあ今風の言葉でいうとまさに交流人口なんですね。人口減社会で、どうやってこういう人口減を補うかというと、まさに交流人口を呼び込むしかない、と観光の世界では言われているわけです。交流人口の中で日雇い労働者が時代の流れと共にあいりんに定着しなくなった。新しい交流人口を増やしていく、そのための施策は何か。そのために出来るだけ地域に親和性を持って、明らかに違う人が入ってくるというのではなくて、いままでの地域のあり方を生かしたような戦略と仕組みが必要なんではないかというところから、観光振興専門部会の議論は始まっていると理解しております。

それで、屋台村構想に関してなんですけども、これは、色々議論しました。一つは、やはり道路交通法というのは非常に大きな問題があるというのと、これは、別に大阪市だけでどうこうできる問題では必ずしもありません。それと、何か事故が起こったときの責任問題というのもありまして、そのへんがかなり壁になっています。ただし、屋台が観光資源になって、成功している国というのは海外にはたくさんあります。時間があれば、また写真を見ていただきますけども、たとえば、台湾なんかはまさにそうなんですけども、1980年代までは邪魔者にされていた台湾の屋台街を、観光の文脈で取り込んで、良い屋台街を育成しようとやり始めて、今は台湾に行かれる観光客のほとんどが屋台街に行かれるという状況です。これも、もう一つの言い方で言うと、人口減社会が到来したときに考えるべき課題です。今、1970年代の都市計画で引っ張られた道路、広幅員道路というのが、今まさに出来上がりつつあります。人口減社会に入った今、でかい広い道路がバーンと通って、一体何するねんという状況があるんですね。そのときの一つのツールというか、解決方法として、道路空間の利活用というのが間違いなくこれから生まれてきます。大阪市は御堂筋でも色々実験されていますけども、そういう動きは出てくるので、これは、このまま継続して調査、研究して、いつか大阪発で路上をうまく利活用して屋台街をつくり、観光客を集める、わざわざ東京からその屋台街に来る、アジアから来られた観光客もそこをめがけて食事に行く、そういう屋台街を作れるように継続調査していきたいと思います。

次にバスターミナル構想なんですけども、実はこの構想は条件付きでした。JR新今宮駅の北側に空き地があるんですけども、それを活用する文脈の中で、私のほうから、提案させていただきました。これに関しましてはまず、大阪市内のバスの状況がリンクしているというのが前提条件でした。大阪市の職員の方々からも御批評いただいたんですけども、OCATというバスターミナルが大阪には存在していて、鉄道会社がバスの管理などもしているということで、それを潰して、わざわざ大き

なターミナルを建てるということは、実現性が非常に低いと。むしろ、新世界や阿倍野を視野に入れて、西成でどういう風なニーズがあるのかということをしっかりと見極めて、先ほどの話でいうと広幅員道路が出来たときに、出来た新しい空間をどういう風に利活用するか、そういうことを考えていく中で、バスターミナルでなくても、例えば、ツアーバスが着くところであったり、観光バスが着くところであったり、そういう風に道路を多目的に使えるような空間を生み出して行く方が利口だし、現実的だろうと。そういうことで、話が進んでいます。私もその線で納得しております。それが、現実的なラインだと思います。

このあとの話は、後のパネルディスカッションでも関わってくる話なので、そちらのほうでゆっくりしていただきたいと思うのですけども、商店街の活用と活性化ということを一つテーマに上げております。私の方からだいぶお願いしたのですが、なかなか西成区の商店街って、住居一体型のお店も多いですし、誰が不動産をお持ちなのかも非常に複雑になっておりまして、外来の人が不動産を借りるときにハードルがすごく高いのが現状です。そこで、できれば商店街の組織であったり、官の部分が間に入ってこの店舗なら借りれますよ、という状況を作り出して、そしてそのまちになじんだ形で入ってくださいという風な方向で公募を打って、出店を誘致するような事業を展開できないか、というようなことを官民協働でやっていこうという話になっております。先ほど申し上げましたように、外国人が 12 万 2 千泊ということは、だいたい一日あたり 400 人ぐらい外国人が太子地区にいてるということです。それ以外にも実は外国人は泊まっているんです。先ほどの数字はあくまでも 8 軒のホテルだけなので、もうあとプラス 2 万泊くらいは余裕でいると思うので、その外国人が楽しめるような店なんかをプロポーザルで誘致できたら面白いなと思っております。できれば、その出来たお店と太子 1 丁目あたりの国際ゲストハウスで組んで、そこに泊まっている人がそこに行きやすいような方法を作って、お店が出来たら 1 軒必ず成功させると、こういうのって流れができてきます。とりあえず一軒を公募形式で成功させて、それをつないでいくという方向で考えております。

それと簡宿の活用と活性化ということなんですけども、実は大阪市には簡宿の施設と関わる旅館業の条例というのがあるんですけども、これが２００８年に改正されています。改正されて、どういう条文が加わったかというと、「定員 1 名の客室を設ける場合には，その客室の延べ床面積は総客室の延べ床面積の 2 分の 1 未満であること」というものでして、この条項は現在西成区で展開されている簡宿の現状には合ってなくて、この状況に合わせようとすると、かなりの改築が必要になってきます。簡単に言えば、既存の簡宿はそのまま死んでくださいと、立ち枯れてくださいという意味にも取られかねない話なんですね。先ほど申しましたように大阪市西成区で外国人の宿泊者がとても増えたんですけども、増えたのは太子 1 丁目のホテルが頑張って稼働率ぎりぎりまでいったからです。もうこれ以上は入らないというぐらいやと思います。おそらく稼働率 9 割を超えるともうそれ以上はないんでね。宿泊産業の一つ大きな特徴は、USJ とか列車なんかは稼働率３００％であろうが４００％であろうが、入れようと思えば入れられます。しかし、宿泊産業というのは、シングルの部屋に 4 人も 5 人も入れると、これは全くの違法なんで、出来ないんです。だから、宿泊産業については育成していかないとダメだということです。大阪市にも、大阪観光局というものができたんですが、そこの計画では、確か２０２０年に４６０万人の外国人観光客を集客するとおっしゃっているんです。今の約 2 倍ですね。2 倍になった人をどこに泊めるかというと、ホテルしかないわけです。ということは、既存のホテルを外国人も泊まれるように変えて、それで、ホテルのキャパをある程度増やしていくという政策がないと、そんな計画は絶対成り立ちません。ということで、私の思いからすると、現在簡宿で、生活保護受給者等も受け入れている簡宿が、例えば生活保護の方が減っていった分の部屋を観光客向けに変える。もしくは、簡宿から、一旦福祉マンションになって、簡宿の免許をほかしてしまったけども、昔持っていた人に関してはもう一度戻しても良い。そういう風な簡宿への再転用も含めて、宿泊産業の再生を促すような施策がないと、西成区のあいりん地域の中で外国人を含めて国内観光客を受け入れる余地はもうほぼない状態です。このま

ま行くと太子地区は来年にはほぼ間違いなくパンクするんで、萩之茶屋地区の簡宿が、上手いこと変われるか変われないかというところが鍵になっていくと思うんです。それを変われるように行政的に後押しするような施策がないと、なかなか大変かと思います。でも逆を言うと、萩之茶屋１丁目の簡宿の方も、外国人が来るんや、観光客が来るんやというのを初めて実感したのが去年やと思います。去年の夏の状況は本当にそういう状況でした。これからどんどん日雇い労働者の人が出て行って、生活保護受給者の方が亡くなって、次に再度受け入れにくい状況が出てくると思います。そこで、次どうしようかと考えたときに、外来の交流人口を増やす、観光客を増やす、外国人を受け入れるという方向性が多分見えてくると思うので、まさにそういう意味では絶好のチャンスかと思っています。これは、先ほど申し上げましたように市長が代わられようが、地域の地場産業として絶対必要なことだと思っています。

それともう一つ、アートプロジェクトというのが計画に上がっておりまして、萩之茶屋小学校の西側にあります南海の高架下に大きな壁面があります。ああいう壁面ですとかシャッターとかいうのは私有地なんで、所有者の方がうんと言えば、絵を書けるわけですね。できれば、そういうところに落書きではなくて、本当にプロフェッショナルなアーティストが地域の方々と本当に対話して地域の将来を絵で描いて、それを西成区の中を回廊できるようなものを作って、というようなものをやっていこうというような話がでてきました。あの辺というのは実は通学路にもなってますんで、描いた絵をライトアップして、いたずらされるのは嫌なので、絵のところに何らかの形で見守るようなシステムを作りたい。そうすると、アートを見に来る人たちも増えるということですよね。一番大事なのは何かというと、外来の人たちがそこに来て、外から来る人の目があるということが、まちが変わる一番大事な事やと思います。そういうアートプロジェクトを立ち上げるということを上田委員らと話をしております。

案内版に関してですけども、これはもうすでにいくつかありまして、たいしたことないものなんですけども、太子の交差点のコーナー角にこういうのをつくりました。これもね、本当たいしたことない話なんですけども、実はすごく意味があります。これを作るに当たって西成区役所の職員の方々が、西成のライオンズクラブに走ってくださって、今宮工科高校の生徒らに話をつけて、東奔西走されて、それでプレイヤーをいっぱい集めて、この看板ができたということなんです。高校生が作った、上手いものでもないんですけども、これを象徴的な事にして、今後こういう物を増やしていきたいということになっております。ここに書いております新今宮地区観光まちづくり推進協議会といって、JR 西日本や、南海電車、阪堺電車などの鉄道事業者も入ってくれていて、このまちを変えていこうという機運が西成特区の枠組みと一部連動しながら、一部はもう勝手に民間主導で動き始めている次第でございます。それと、これも区役所の職員が一生懸命頑張ってくださっているんですけども、今、動物園前１番出口を上がったスペースのところに、ジャンジャン横町の入口のところなんですけども、新しい案内板をつくりましょうという話を進めているところです。

観光振興専門部会に関しましては、まあこういった感じで、比較的民間主導で動いている部分が多々あります。先送りしている話も、まあ、屋台村とかバスターミナルの話もそうなんですけども、これはなかなか大阪市単独の力では上手くいかない話やと、私も認識しております。ただし、確信しているのは、これから日本の人口は減ります。日本の人口が減っていく中で、道路の利活用であるとか、そういうことは考えざるを得ない話なんで、西成特区構想の中で推進的な取り組みとしてやっていって継続的に議論していって、もし、実現するなら、西成から一番にという気持ちを持ちながら、継続審議させていただいている次第です。詳しい話は、このあと、パネルディスカッションでも議論させていただきたいと思いますし、是非市民の皆さん、区民の皆さんのご意見を聞きながら、むしろ聞きながらというのではなく、皆さんと一緒になってやっていこうとしています。こういうものは、別に僕がしているわけではなくて、市役所の方がするわけでもなくて、まちづくりなんで、いろんな案を出して、やっぱりそれなりに良い物を見つけたらみんなで動くように体制を取っていきたいと思っていますんで、是非皆さんのお知恵もお貸しください。ありがとうございま

した。

○司会　ありがとうございました。そうしましたら続きまして、地域資源活用専門部会のご報告に移らせていただきたいと思います。まず、水内先生の方からよろしくお願いいたします。

○水内教授　水内です。よろしくお願いします。私の部会は、松村さんの部会とは性格が異なるというか、地域資源活用部会という部会に属しております水内です。観光部会の方は、今日もお見えの地域の委員の方にご参加いただいて議論されていますが、後で寺川先生の方からもご説明があるかと思いますが、地域資源活用部会の方ではまだ、内部で色々調査、あるいは実態がまだちゃんと掴めていないということもあり、まだ公開前の仕込みの段階でございます。主に、ヒアリングとか調査とかやっておりまして、西成区のいわゆる活用する地域資源、特に、空間、土地問題等々についてですね、今調べております。その一端を今日はご紹介させていただきます。

不動産屋さんへのヒアリング等々を寺川先生の方にご紹介していただきたいと思っております。松村さんも同じく私と同じ地理学のご専門でして、地理的に西成はあいりん地域、あるいは北西部、中心部、南部、岸里、玉出とあるわけですけども、松村さんの話はあいりん地域中心にお話いただいております。私の場合は、役割分担としまして、西成の北西部とその周辺部についてちょっとお話させていただきたいと思っております。

まず第一に何かというと、同じゲストハウスの話です。これは、地域資源活用部会の中で、西成区のあいりん地域以外の北西部というところに着目すると、これまた外国の方がたくさん居住されているということが判明しました。この外国の方というのは、今流行のルームシェア、あるいはハウスシェア、ゲストハウス、ミングル、ハウスシェアリングといろんな方法で、今あるスペースをシェアしたり、分けたりして、宿泊したり、居住したりするのが流行っております。特に東京では若い人、あるいはお金がある人も、なるべく家賃をセーブするために、カラオケルームみたいなところも紹介されていましたが、脱法ハウスなどと言われていましたけども、実は、大阪は東京に比べて遅れているんですけども、今ゲストハウスというのがすごく流行っております。このゲストハウスは、先ほど松村先生が紹介してくださったようなホテルとは違って、ちゃんと就労ビザをとって１年間ぐらいおる。西成区でもちゃんと住民登録をして区民としておられる方々です。ですから、長期滞在型の外国人がこれまた西成区内でたくさん住み始めているという実態があります。特にゲストハウスは、主に不動産業者が専門的に経営または管理しており、家具、家電、日常生活における備品が付属している。また、共用空間の清掃等は自主管理ではない場合が多い。シェアードハウスと呼ぶ場合もある。規模は 2 室以上で、最小 5 人以上、最大 100 人以上の居住者が共同生活している。そういうタイプでございます。実は僕もあまりよく知らなくて、去年からこのエリアマネジメント協議会に入りまして、調査をしております。その調査結果というのが本日のパワーポイントになります。今回対象になったのは、西成区で営業されている本社のある不動産屋で、例えば、ゲストハウス分布はこうなっております。一番北が北区、都島区、城東区、中央区の空堀とか天王寺区と市内に点在していますが、西成区に 9 物件集中しております。鶴見橋から天下茶屋北１丁目、萩之茶屋商店街にいくつかあります。それから、住之江とか帝塚山とかもあり、全部で１９件ほどゲストハウスを運営されておりまして、トータルのキャパが３００室ほどございます。一年間だと、３００×約３００で、だいたい 9 万泊ですので、先ほどの太子町の 12 万泊ございますけども、これだけでだいたい、同じ規模感で長期滞在型の外国人がお住まいになられております。

調査できた 119 名の宿泊者というか住民ですね。西成区に登録されて日本で住んでいる区民になっております外国人登録証を持っている人が、有効回答の 119 名の方の、本当は 250 名分ほどあったんですけども、有効回答が得られなくて、119 名分で、そのうち男性が６６％、女性が３４％です。

年齢は、平均年齢が２９．３歳、この若さには理由があります。なぜ 1 年間滞在できるかといいますと、ワーキングホリデーを利用されている方が圧倒的ですので、そうすると、30 歳以下、1 年間というのをベースにやっておりますので、ほとんどが若い外国人。30 歳以上の方は日本人が多い

です。ゲストハウスを利用する日本人もおられます。簡宿を利用せずにゲストハウスを利用するというね。こういう形態もあります。ここの聞き取りの範囲では日雇いの方はおられませんでしたけども、かなり不安定就労でおられることは事実かなあと思われる日本人の方が多いので、日本人と外国人ではかなり違います。

国籍ですけども台湾５４％、中国６％、韓国８％、香港６％、日本１９％、その他につきましてはアジア諸国若干ヨーロッパ、という形でございまして、台湾人が非常に多いです。

それから宿泊の経緯ですけども、ホームページ、ホームページ以外の広告、友人の紹介、大体まあ、分け合っておりますけども、フェイスブックの存在というのは大変大きいんじゃないかなあという感じが致しました。不動産業者さんも、ホームページで４カ国語対応というのを出されておりますんで、多いところでは、韓国語、繁体文字、簡体文字、中国語は二通りですね。あまり中国語でやってしまうと簡体文字、香港台湾目指すと、繁体文字を使うので、それと、韓国、英語という感じで出されております。

それからビザの種類ですけども、ワーキングホリデー６９％、留学１１％、就労１２％、観光８％という形で、目につくのはワーキングホリデーの方です。そして、ちゃんと契約を結びます。西成区さんにいっぺん行ったときに面白かったのは、え、そこってアパートやっておられるんですかって。そんなそこに住めましたか。という部分を確認したりして、なかなか面白かったんですけども、パスポートでもってですね、業者さんの方は、契約書を作ると。要するに正式にですね、賃貸契約を結びますので、そういう形でやっておられるのがわかりました。

大体、福祉アパートと変わらない外観、例えば、右上にあるような物件は、これは別に福祉アパートにしてもよかった、あるいは福祉高齢者の生活保護者向けにしてもよかったんですけども、大家さんの判断で、水回りは共用スペースでやる分、各個室に水回りを入れないので安くつきます。改修費用が。普通にやれば、一部屋２００万ぐらいかかるんですけどね。それより安い費用で済むと。どっち取るかなんですけども、共用スペースがいります。あと、空き室のリスクがあります。どっち取るか、大家さんが非常に頭を悩ましているところなんですけどね。言うても、大家さんは不在なので、現場はほとんどわかりません。このへんに物件を持っている大家さんはほとんど西成区に住んでおられませんので、不動産屋さんが工務店と一緒になって、大家さんに指南しながら、じゃあ、外国人のゲストハウスにしましょうかという形でやっていく。というようにやってられます。中身を見ていただいたら、水回りがございません。ユニットバスもありません。キッチンもありません。ただこういう形で部屋だけがあると。この建物の中身はこういう形で、上は共用スペース、ほぼ共用スペースですね。こんな形で、共用スペースでは行く時間にもよりますが、誰かが食事作っていたり、駄弁っていたりですね、というように面白いスペースになっております。

これは長橋にある物件ですね。それから、鶴見橋商店街にある物件はダウンタウンホステル、大体ダウンタウンホステルなんですけども、これは元歯医者さん、それを改造して、こういう形に改装してやっていると。鶴見橋商店街近辺に集中して７件ぐらいあります。これは三角公園のすぐ近くで、ちょっと行ったらチンチン電車阪堺線で、そっち行ったら三角公園という場所で住所は天下茶屋北１丁目でございますが、これは新築で、ここに２０世帯ぐらい入られてですね、大体４畳半の広さになっておりますけども、ああいう形で共用部があります。いくつか、これは萩之茶屋商店街の物件、これはどこだったかなちょっと忘れたんですけども、外からパッと見たら良くわかりません。でも、実は外国人の方が居住されていると。中に入れば、こういう押し入れなんかもあったりして、様々な形で工夫してそういう物を作っておられます。

統計で見てもわかりませんので、聞き取りしました。卒論を書く４回生とうちの院生中心になって、３０名に聞き取りをしまして、大体２０代後半が多いんですけども、国籍は３０名中１７名が台湾、韓国人３人、中国人３人、香港人２人、日本人４人、ドイツ人１人という形で居住期間はだいたい１年未満ということで、１年以上は日本人の方でした。こういう方が今おられます。

なぜ日本に来たのかと聞くんですけども、やはり日本の文化が好きである。文化の大部分はアニ

メとかですね、そういうものでございまして、ゲームとかそういうもので、そういうものになんとか接したいという欲望がすごく高い。そういう意味で、日本語の勉強とかキャリアはちょっと低いんです。おもしろいのは、これはアンケートをとったんですけども、不動産屋さんは今中国人の方を職員として雇っておりまして、中国語が出来る中国人でこういう中国人や台湾、香港の人に居住サービスを提供していくということをしておられますので、基本的にはその不動産屋さんと一緒に行ったんですが、８割の方は日本語がしゃべれました。相手の方は。なぜかというと日本が好きだと。そして１００％大卒でした。台湾は大学進学率が高いんですよね。ほとんど９割なんで、だいたい皆さん大学に行っているんですが、日本研究や、日本語学科の方がほとんどでしたので、全然日本語がしゃべれないという方もおられましたが、片言から流ちょうな日本語をしゃべれる方が大部分でした。まあ、若干は英語であったり、あるいは本当に通訳の方をいれないと話せないということもありましたが、まあ、とにかく日本を愛している、好きだという方が本当に多いということです。

そのなかで、なぜ大阪に来るかということなんですけども、結構東京は家賃が高いというイメージがあり、実際ゲストハウスの市場を見ても東京は７万円とかあり、西成ではなんと３万円台でありますので、やはり安いというのもあるんですけども、それと同時に本当に物価が安いかどうかもう一つわかりませんが物価が安いと言われるんですね。あとは、友達の紹介というのも多くて、本当に一旦入ったらそのままチェーンでまわっていくという形で。人が親切というのはよくわかりませんけども、あまりなぜ大阪に住んでいるかということについては裏はとれませんでしたが、まあ、こっちですね家賃が安い、家具がそろっている、友達の紹介と、この二つが大きな理由のようです。だいたい、大阪でも大阪市の中央区とかのゲストハウスの相場が５、６万円なのが、西成区の相場が３、４万円となってますので、これが魅力で来るということと、そこに住んでいた友達が友達に紹介されていく、チェーンでつながっていくということでございます。

ゲストハウスの見つけ方はですね、エージェントを利用するというより、友達の紹介や、インターネットでやってしまうというようになっております。で、こういうところに住むんですから、台湾や香港にいるときに狭いところに住んでいたのかと言ったらそうでも別にない。ある程度豊かな暮らしをしている人たちで、今、日本に来て狭い空間での生活をエンジョイしているということです。

職種ですけども、ほぼアルバイトということで、派遣に入っておられる方が一人おられましたけども、外国人専用の派遣業者というのがあるらしくて、そこに登録されたりしていますが、アルバイト先は皆さんご存じの食券で販売しているような店ですね。食券なので、あんまり言葉を話す必要がありませんから、勤務時間帯はそれぞれでありますけども、そういうことで働く人が多いと。仕事の探し方も、こういう形でインターネット、ハローワーク、ハローワークは外国人専用というのがあるんですね。知らなかったんですけど。ただ、ワーキングホリデーのビザでハローワークに行くと、職員からダメやということもあったということで、１００％の確率で外国人がすぐ就職先を見つけられるかというと難しいかもしれませんけども、まあ、結構ハローワークも使っているということが判明しました。

就労場所ですけども圧倒的に中央区、要するに難波が中心のようで、西成区に住もうというのは難波が近いというのもあって、別に阿倍野で働くということなんかはあんまりないという感じがしました。

ほかの居住者との交流というので、あまりない１２人、共用部で一緒に過ごす１６人、一緒に外出する９人となりました。比較的交流というのがあるなあというのがわかりました。ゲストハウスのプラス面は何かというと、やはり交流ができる。経済性であり、生活用品がそろっているというのがあり、マイナス点は汚い、あとは騒音ですね、まあ、部屋が狭い、暗いもありますが、あまり高い割合では出てこないんだなという印象です。

将来について出身地に帰ると言う方が多かったですけども、１０人ほどは日本に残りたいという方

も、また違うところも体験したいという方もおられました。

次にこれは地域への要望ということですけども、地域への要望があると答えた人で、交通費が高いので、交通についての情報を提供するセンターがあればいい（台湾人）、いろいろな手続きを手伝ってくれる場があれば（ドイツ人）、日本人と交流できる場があれば（台湾人）、近くにアルバイトが探しやすい環境があったら良いなと思う（日本人）、近所に安いスーパーを教えたり、口座の手続きを手伝ってくれる施設があれば助かると思う（台湾人）、地域の方と触れあう出会いの場があったほうがいいと思う（台湾人）、日本人と交流が出来て日本語能力をスキルアップできるもの（台湾人）、というようなものがありました。一方でないと答えた方の意見としては今で充分、サポートする施設がなくてもいい（中国人）、学校とインターネットだけで充分（中国人）、施設がない方がいい、あったら問題が集まる（日本人）というものがありました。これはちょっと非常にヒントになるんですね。国際化を図るときに永住型の外国人に、どう地域が接していくかということの一つのヒントになるかなあという風に思っております。先ほどの松村さんのお話にあったように、ちょっとペイントでやると、なんていうかちょっと見てみようかというか、アートっていうのは言語を超えての力がありますから、そういう仕掛けがあると、ちょっと見に行こうかとなるので、非常にいいんじゃないかなあと思います。

西成は東アジアでも名が知れていました。やはり、西成に行くときに家族が心配するという答えがあったんですけども、治安の悪さに対してはほとんどの方が西成に対して、危ないんじゃないかとか言われたりしたと。で、実際はどうですかというと、治安の悪さを感じるが５名、気にならないが２２名になりましたんで、大部分の方は感じないと言うんですけども、鶴見橋のあたりに住んでいたらそうかも知れませんけども、三角公園の近くには寝ている人がいて、見たことがない風景を見たという風に答えられる人がおられました。

これは、ちょっと飛ばしますけども、西成の良いところ、悪いところが大体あります。これは、卒業論文で、うちの学生と院生がやった作品ですので、誤解のないように言いますけども。あと、居住者のコミュニティ、これは重要でして、これをやったのはですね、国際化でせっかく外国人がたくさんおられて、住んでおられるのなら、もっと地域と交流して、西成の国際化というのは太子の地域と違う形で出せたら良いんじゃないかなあということで、どれだけ地域と交流しているのか、話を聞いたんですが、基本的には web のコミュニティがすごく、ＬＩＮＥとかですね、そういうコミュニティをしているので、別に西成に住んでいても台湾で住んでる、香港で住んでる、同じような交わりがあったと。それと、職場のコミュニティというのはたいがい大きいなということがあったと、あるいは、日本に居住している同国人同士のコミュニティが既にあって、日本で長期的に毎年毎年働いているというのも、交流で今後のキャリアアップを考えていましたので、あまり地域というのはですね、出てこなかったなあと思っております。

あとは、木造アパートのリニューアルについてはですね、ちょっと今日は飛ばします。いろんな形で動いているということがわかります。これはほとんど福祉アパート、高齢者アパートの話になりますんで、言いたいことはですね、外国人のゲストハウス、４００名ぐらいおられるんですけども、大体１０万泊前後、西成で供給しているということでございます。あとですね、今のゲストハウスの話で、これももうちょっと詰めてやりたいし、他のゲストハウスがあるエリアをいくつか見ておりますが、西成のゲストハウスが一番集中して面白いなあと思っておりまして、他は、各所に点々と点在しているので、太子のホテルで１３万泊、こちらも１０万泊と外国人の集中しておられる地域的にはふたつの極があり、もうちょっと西成区役所さんで、この外国人の方の存在をアピールしていただいて、せっかくこれだけ泊まっていただいて、これだけ国際的にいろんな方がおられるというのは、ものすごい誇るべき特色ですので、これを何とか伸ばしていくように考えていきたいなあと思っております。

次は未利用地の現状で、これもあいりん地域には未利用地のところがほとんどなく、南海電車の跡地のところとか、若干その辺しかございませんが、西成北西部に行くと未利用地が結構たくさん

あります。これがなんとか活用できないのかなあというのが、座談会のときのお話でした。で、細かいので全部言いませんけれども、未利用地を洗い出しました。で、この未利用地がですね、今どういう状況にあるかということで、それぞれ番号振ってありますけども、活用方針一覧表って処分済みのものをリストアップして一体どうして売却していったのか、未利用地が売却した後、どのような物に使われているかということをですね、とりあえず検討してみようということから始めております。土地の元の所有というのは、大阪市というのはいろんな局で併せ持っていますので、同じ敷地であってもこちら側は何局、こちら側は何局と分かれてましてなかなか空いているとはいえ、どう使っていくかは難しい。ただ、流れとしてはとにかく売りましょうという話になっていますので、売っている実態というのを一度見てみようと。空いているところに何か、大きな目玉の物を引っ張ってこれないか、とは思っているのですが、たとえばこども・子育ての部会から要望のあがっているプレーパークなどですが、具体的な検討までにはいたっていません。

一つ着目しましたのは、戸建て住宅に未利用地が変換しているということがいくつかありましたけども、そのうち未利用地を使ったのが、５物件あったというのがわかりました。要するに開発許可を出した一定規模以上のものが、建て売り住宅業者さんで、５戸から１０戸以上、３０戸といったものもいっぱいありますが、そういうところをリストアップしたものです。特徴は何かというと、大体一区画５００～１０００㎡でございますので、１５０坪から３００坪ぐらいしかないということで、戸数も１０戸ぐらいに区切られて、大体３０坪前後で建て売りが今出ているという状況でして、一番多い使われ方の戸建て住宅３階建てというものの特徴は、２０００万円ぐらいで売り出されているという実態がわかっております。大体売却した市有地だけで１２０世帯ぐらいあったかと思いますので、３００～４００人ぐらいの人口で、子育て世帯が入ってきたなあということでは評価されるかと思いますが、この辺が大きな流れになっているかどうかというのはなかなか難しいところかと思います。今、いくつか色分けしてますけども、こういう形で処分したところ、売れたところを赤で、処分済みの未利用地はこういう分布になりますよと、背景にある薄い黒は全ての未利用地を表しているものでございます。戸建て住宅に変更した場所を南の方になりますけども、いわゆるなにわ筋がここに走っていますけども、戸建て住宅地に変わっているということになりますので、考えようによっては子育て世代が戻ってきているということになりますので、そういうことがわかると思います。売却したときに入札でどこに落ちたかというと、とはいえ全てが戸建て住宅に変わっているわけではなくて、この辺の北津守はですね、あまり戸建て住宅に変わってなくて、こういう状況にあるところが多いですね。これは全部北津守ですね。これは、いくつか北津守でも戸建て住宅があって、こういうところがあります。この辺は、北開ですね。これも出城ぐらいですかね。これも出城、これは一番大きいプールがあったところですね。２３世帯ぐらいの戸建てに変わっているということです。今のところ、どこをどうするという話には至っておりませんけども、戸建て住宅である種、子育て世帯が入ってきておるんですけども、後でご説明しますが、これが商売として不動産業が成り立っているかというと、なかなかそうでもないということがありまして、この辺ちょっと寺川先生にバトンタッチさせていただきます。

○寺川准教授　今、水内先生のほうから外国人の方の住まいの状況ということでお話いただいたんですけども、地域資源の活用に関しては、ベースとしては、やはり環境・福祉とか、観光振興とか、こども・子育て部会など、各専門部会で出てきた活動に関して、具体的にどういう場所が使えるだろうかとか、また使う場合にどういう課題があるか、そしてどうしていけば活用できるかなどについて、問題やデータの整理とか、現状況把握、その可能性等を検討しています。言ってみれば行政の方と一緒に、具体化のためのハードルを検証している段階なんですね。例えば、今の未利用地にしても結局使おうとしてもなかなか使えない状況が見られます。例えば、今のこども・子育て部会のプレーパークの話になりますが、その場所をどうするかとなりましたら、遊休地といいますか未利用地があるからといっていきなり使えるかというと、現状ではなかなか使えない状況であったりします。各部局の整理の問題等々があり、資源はあるんだけれども、なかなか使いにくいという課

題が出てきています。

お二方のお話では外国人の方の話が多かったと思うんですけども、一方でこの地域の問題は、誰が住むかということが重要でもあり、宿泊だけじゃなく、誰がそのまちで生活するかということだと思うんです。それがこのまちの将来像と、人と住まいの問題として今後イメージしていくべきなんだと考えています。マネジメント本来のエリアマネジメントではマネジメント、いわゆる住んでいる居住者の方だけではなくて、いろんな地権者の方、権利を持っている方々にも参画していただくことがベースにありまして、そういう意味では地域の不動産状況、そこで売買といった営業をされている方々、地域の企業の方々、そういう方々もマネジメントに参画していただかないと、まちは変わっていかない。という視点も重要であります。

そこで本年度は、まず状況を知ろうということで、まちの不動産屋の方に来ていただきまして、お話を伺いました。全部はなかなか答えられないという生々しい話もあるんですが、やはり他のまちと違ってというか、地域の不動産屋さんがかなり地域をコーディネートといいますか、地域をつないでおられる実態もあります。他の大手の不動産屋さんがこの地域をマネジメントしているというより、むしろ、地域の中で地域の人たちと地域の物件を調整されている。というのが私の全体としての印象でした。話を伺った方々は、新今宮周辺に多くの物件を持ち、そのコーディネートをしている方々です。その方々にヒアリングをしてわかった、いくつかの傾向をお話します。ただ、時間が押しておりますので、簡単にご説明します。

区内の不動産市場はまだまだ悪化傾向にあるという印象があります。阿倍野再開発がありますから、その影響というのは西成においてもプラスに働いているんじゃないですかとお聞きしたんですが、あまりその影響がないということでした。北西部の公有地処分については水内先生からもお話がありましたが、戸建ての建売業者が事業としてはやっているんだけれども、有効に活用できているかということになると、なかなかそうはいっていないという現状にあるようです。近頃の売買市場としましては、商店街などで目立つ中国資本が特徴的ですが、いわゆる彼らが今までやってきたこととは違うところで、海外資本が入り始めているようで、誰がやっているのかわからない売買状況が見られる中で、特に商店街ではこのまま放置しておくと、手が出せない状況になるのではないかというようなお話がありました。

それから、これからのまちづくりというテーマについては、地域イメージを誘導すべきではないかと感じておられます。これは画期的な話だなあと伺っていたんですが、例えば、不動産業者さんというのは、規制緩和の方向を向くっていうんですかね、私たちの一般的なイメージでは自由にさせてほしいという感じかなと思っていたのですが、私たちがお話を伺った不動産屋さんは、もう少し規制をした方がいいんじゃないかと。まちの価値をあげるという、そういった意味での規制をこのまちの中で、どんどん進めていった方が、結果的には良くなるし、不動産取引上ではネガティブな印象を持っているんだけども、良い意味での規制をしていくというのも一つの方向性じゃないかなというお話がありました。

それから賃貸市場については、ある一定の家賃水準が形成されており、立地、建物による賃料の差はほとんどないようですね。

それから、これからのまちづくりについて、賃貸ということだけでなく、まちづくりのセンスというのもこれから大事になってくるんじゃないかというお話を伺いました。僕は正直、不動産屋さんとお話をしても、なかなかこういう話は出ないんじゃないかと思っていたのですが、比較的そういう議論になったのが、非常に私の印象に残っています。特に、今実際に賃貸住宅の空き家を運営されているオーナーの方がいて、コーディネート、マネジメントされているわけですけども、そのオーナーに、福祉施策と一体となった検討の提案など、そういう意味でまちの運営、事業を成り立たせる上での手法として、生活支援と一体となった住宅斡旋も結果としてやっておられます。それから、住んでいる人についてもフォローしないといけないと思っておりますと。現実的には、なかなかフォローまではいけないので、近くにある支援団体とか、介護事業所とかに繋いでいるんだけ

ども、今後も不動産業をやっていくとするならば、そういうさまざまなサービスをいかにリンクさせるか、ということが今後の不動産市場を考えていく中で大事だというようなご意見がございました。ハウジングマネジメント機能をどうしていくかということについては、不動産屋さんがやるというのはなかなかハードルが高いんだけども、例えば、地域でそれをマネジメントしたりとか、それを調整する機能の必要性を伺ったところ、是非そういう仕組みがあれば参画したいと。そういうものがやはり今求められているんだというお話をいただきました。

以上、観光振興部会と地域資源活用部会のお話をしました。今、特に観光振興部会はご説明いただきましたが、その他の部会もどういう議論をしているかということもこの際、少し皆さんにお伝えしておきたいと思います。これは、今後設定されているシンポジウムでより深く議論されているのでまたそちらの方にも足を運んでいただければと思います。

例えば、環境・福祉専門部会の中では、居場所づくり事業のサテライト拠点などの身近な居場所づくりを進めていくことになっています。さまざまな事業が具体化していく中で、地域の居場所をどう作っていくのかという課題が非常に大事なのではないかとしています。官民協働の問題解決、まちづくり活性、生活困窮者の就労自立支援策の具体化や、あいりん総合センターの建替えに伴う周辺環境の整備等についても、エリアマネジメント協議会において議論していけばどうか、というような議論がなされております。これはまた別のシンポジウムの中でも議論いただくということになると思います。

こども・子育て専門部会の中では、今年度はプレーパーク事業の話がメインになっておりましたが、候補地を検討することですとか、そういうことで、先ほどの遊休地の話になりますね。市街地の活用、どこが使えるんだろうということになります。で、色々検討をしているところです。プレーパークのサテライト候補地とか、公園の活用が出来るんだろうかとかですね、まあ、それからプレーパークって何なんだということも、いろんな事例を出していただきながら、紹介していただきながら可能性についても検討していく。小中一貫校については別組織で議論されているということなんですが、専門部会でもこの議論は一応出てまいりました。特にせっかく一貫校をやるならば、教育について幅広い意見交換ができる、そういう場を作っていくべきだというような話もありました。それから、プレーパークだけではなく、より子育てをする地域包括的なシステムを検討しないと、一部のことだけで終わってしまうということでした。

この二つの部会について、今回の報告の中では特に地域資源の活用を今後どうしていくのかということで、今の段階では、まだハード系が中心かと思います。観光もそうなんですけど、地域資源をどう再利用するか、リノベーションによる資源活用の中でも、例えば関連法令の適正検討だとか、先ほどの話でも物件の質はどうなっているかということも、別の議論としてあるわけですね。使えるものは使うということと、その物件の質を高める仕組みというのも当然いるだろうと。あとは、地域資源のマネジメント機能もかなり議論が進もうとしておりまして、すまいとか不動産とか人材支援とか事業化というのを、マッチングするシステムをクリエイトする体制というのが具体的に動かしていくのが大事ではないかという話が出ておりまして、今年度以降は、こういう議論を進めていくことと思われます。

以上で報告を終わりますが、時間もあまりありませんので、せっかく今日は委員の方にお見えいただきましたので、それぞれ委員の方にご意見をいただければと思うのですが、そうですね。まずは商店街の話からいきましょうか。空き店舗の活用等についてということで、商店会の村井さんがお見えですので、もし、お話がありましたらお願いします。

○村井委員　区商連の村井でございます。今、西成区内の商店街はたぶん３０近くあるかと思うんですが、区商連に加盟いただいているのは１７くらいです。地域的にいうと、私は飛田地区なんですけども、動物園前ですね。萩之茶屋というのも一つのエリアです。あと、鶴見橋、これも一つのエリアです。少し下がって、天下茶屋のエリア、天下茶屋の駅前ですね。それから、最後が南の端で玉出です。だいたいこの５エリアぐらいになるんです。今、商店会には入っていただいてないんで

すけども、もうひとつ西側に西天下茶屋という商店街もあって、これも大きな商店街なんですけども、加入いただいてないんで、あれなんですけども。実際空き店舗がどんどん増えていっているのは事実なんです。で、各々一つ特色があって、例えば、今言った西天下茶屋なんですけども、西天下茶屋さんの空き店舗の理由というのは、明らかに幹線沿いの大型店の進出です。その影響を受けて、商店街自体が消費力を落としていってしまった。それはもう明確だと思います。それから玉出の本通りさんはあまり空き店舗はないんです。でも、玉出さんは　３つ商店街があって、玉二という商店街、全部で２０店舗弱ぐらいだったんですけども、今７，８店舗しかやっておられない。それから玉北という商店街が東西にあって、玉二商店街と平行してあるんですけども、そこも３０店舗ぐらいあったはずですが、今は６店舗ぐらいしかないと思います。ここの場合は元々昔から言われていた玉出再開発というのがあって、本当は大阪市のその事業が成功していたら、３０階建てぐらいのマンションが建って、そこに何百世帯の方がお住まいになって、その方達の消費力があったという夢があったんですけども、それがダメになったことが一番大きく、玉二と玉北の商店街に影響しているということです。鶴見橋もそうなんですけども、鶴見橋は一番街から八番街まであるんですが、五番街と六番街の間に南北に新なにわ筋が通っており、それが完成したことで、大きく一番街から五番街までの東側部分と残りの西側部分で、様子が全く違っております。西側では、すさまじい通行量の変化があります。もう一つ、今度は逆なんですけども、たぶん良かったほうですね。天下茶屋駅前商店街では、ここはほとんど空き店舗はありません。なぜならば、天下茶屋の南海の駅から地下鉄の堺筋線もできまして、あそこ多分１日６万人ぐらいかな、乗降客が。やはり人が集まっているところは残るんですね。人が流れてくるんですね。それ以外のところは大体まあ、各々の商店街で通行量を調べると、だいたい日に３０００～４０００人あれば良い方です。それぐらいの規模だとどんどん空き店舗は進んでくる。どうしてそんなに進むかというと、お客さんがお店に来ないからと、もう一つこれは商店街自体の問題ですけども、経営者が高齢化していって、もう息子さんや娘さんに渡せない。渡したくても渡せないというのも一つあるんですね。お客さんが来ないから経営が成立しないから渡せないという状況なんです。というわけで、めちゃくちゃ進んでいます。

私どもは飛田なんですけども、今回観光振興部会のテーマの一つでもあったんですけども、うちらのところは、西成の他の商店街に比べると、非常に珍しく観光客がくるんですね。新世界への観光客がかなりあるので、その方々が、飛田に流入していただいておるということなんです。流入はいただいているんですが、これが課題なんですけども、我々自身もね、従来の地元のお客さんを対象としていったらいいのか、それとも観光客の方々などの新しい流入を対象に商売をしていくのか、というのを常に悩んでいるわけですね。問題なのは、私らの商店街を見ていると、やはり、戦後ずっとあいりんにお住まいになっておられる労働者の方々、もしくは戦前からお住みになっておられる住民の方々を従来対象としているお店ばっかりなので、なかなかすぐさまに観光的要因をもって外来者に対してサービスできるようなお店が出来上がるのかということは、なかなか難しいかも知れない。様態を変えるということは、そこにも大きな課題があります。もし、何かのお勧めがある、もしくはこれは情報でも良いですし、資金面のことなんかも、そんなこともあれば、ひょっとしたら、ポコポコっと空き店舗が新しい業態のものになる可能性もあるのかもしれないなあという風に今ちょっと期待をしております。

もう一つ申し上げますと、残念ながら、従来の住民の方々とあいりんの労働者の方々。実際はもう消費の対象にならないと考えざるを得ません。大体、１０数年前ぐらいでうちら辺の商店街で住民の居住状況をみたんですけども、その時の平均年齢が６１歳か６３歳ぐらいで、一世帯あたり１．５人しかいなかったんですよ。今、もう一世帯１人ぐらいで、高齢者ばかりで。従来お住まいになっておられる方でもそんな方しかおられないという状況になっておると見ています。我々が引退となったときに次を継ぐであろう若い人達がみんな西成から出て行ってしまいました。今、我々の周辺で若い方を見ることはあまりありません。これは大きな課題だと思います。以上です。

○寺川准教授　ありがとうございました。やはり、一概に商店街というものが同じような状態というのではなく、西成区の中でも違うものだと思うのですけども、空き店舗等をどう活用するかということは課題としてもあるし、可能性としてもあるということだと思うんです。例えば、そういうところで、先ほど松村先生が提案されている何か１個でも使っていく仕組みというか、マネジメントする仕組みがもしあれば、そこで、何かが起こっていく、それぞれの商店街で何かが起こっていく。そういう動きなんかは一つの段階として可能性があるんじゃないかと思うんですけども。例えば、ココルームとかですね、その店舗を使って居場所作りをされていますけども、それも含めて少し、ご意見いただければ、アートプロジェクトについてもよろしくお願いいたします。

○上田委員　そうですね。商店街で喫茶店のような形で居場所を作って、いろんな人が出会える場所をつくっています。そこには生活保護の方から外国人の方からいろいろな人が出会って、なかなかダイナミックなことが起こって、日々をすごす。そこに相談にいらっしゃる若い方や、いろんな方が来られるというのも非常にこのまちらしい形かなと思っています。こうした取り組みが、現在例えば、ひと花事業にも繋がっていて、いろんな人が地域の中で自分の存在を生かしていく場がある。そういったことで、生き甲斐が、そしてつながりが生まれて、いきいきとしていっているというのは非常にモデル事業になると感じています。

そんな中、アートプロジェクトというのを考えたときに、使われていないシャッター、高架下とか店舗のシャッターのところをいろんなアーティストや、それから地域の人達が一緒に自分の考えや夢などを形に表していく場を作るということによって、また出会いが生まれるという風に思いますが、そのときに、アーティストさん達が単に作りたい物を作るというよりは、このまちの背景、生きている人々、働いている人々と話をして、何かつくっていくことが好ましい。このまちの良さを生かせるんじゃないかと思っています。そのためには仕組みを作っていかないといけないと思います。

このところ、こういう場にいさせてもらいながらも、一方、突飛なことを思いついたりもするんですね。この間思いついたことというのが、すごい昔何年も前にこのまちに来たときに、実は妄想したことなんですけども、このまちに劇場があったらいいなと。パフォーミングアーツのですね、ハイアートの劇場があったら面白いなと実はすごく昔に思っていたんですが、このところ、そういう活動を私自身もしていなかったんですが、改めて、今この変わり目の時期にこそですね、なかなか面白いんじゃないかなと。そのパフォーミングアーツが、この地域の子ども達や、生き甲斐を見つけたい高齢者の方との接点を生み出すことになれば、非常に最先端のアートが出来て、何か面白いことになるように思われてならず、どうしたらそういうことができますかねえ。区長。

○寺川准教授　いきなり、話を振られましたけど、あとで、まとめてしていただきましょうか。まちづくりにおける「よそ者」、「風の人」がまちに入りながら、「水の人」の役割とか、「土の人」の役割とか、どう関わっていくかという可能性みたいなものがあるのかなあと思っています。

もうひとつ、簡宿というストックが非常に大きくあります。太子の動きなんかもそうですが、これだけ多くの外国人の方を受け止めている、ストックとして機能している。このストックは、西成の将来像を考えるときに、あるいは駅前を中心としたあのエリアでどうなっていくかということを考えるときに非常に重要であります。そのストックをもっておられる簡宿組合の方も来てくださっているので、その話も少し伺えればと思います。

○山田委員　簡宿組合の山田でございます。簡宿組合としては昨年は非常に良い年となりました。こういう良い年でございましたと言える業界も少ないと思います。私ども、昨年、約４０万泊以上達成致しました。一日千人のお客さんが来られて、３６５日ということです。それ以上のお客さんが来られています。そのうちの１２万泊が外国人ということです。２０００年に何も考えないで、ホームページを立ち上げました。ホームページで日本語で来てよねというようなものを立ち上げましたところ、それを見て、外国の方がちらほらと入ってこられました。中国人の方が来られたり、韓国人の方が来られたり。これやったらホームページを４カ国語で作ったらどうかなというようなこ

とから始まりました。そのことで２００４年に９０００人来られました。それから、スタートして、その時に息子も帰ってきたんですが、息子の力も借りてという話なんですが、帰ってきた息子が言うには、僕は３つの武器を持っていると。どんな武器やねんと聞くと、まずは英語をしゃべると、それから、世界中の色々な安い宿、宿街を見てきた。タイのカオサンとか、インドのアラブストリート、韓国も見てきた、台湾も見てきた、それからオーストラリアも見てきた、そこまでやったらたくさんの方々がおられると。で、もう一つの武器は、これは僕しかない。それは何やねんと聞くと、簡宿を持っていること。それだけの３つの条件がそろっているから手伝わせてくれと、こう言うんです。ああ、それはいいねという話から始まって、だんだん成長してきました。それを見て、他のホテルの真似をしたり、こういうような形で順繰り順繰り、今現状１２万泊、こういう数字になってきておるんです。それが、去年がちょっと変化だと思ったのは太子地区に関わらず、今度は萩之茶屋地区に波及してきたということです。萩之茶屋地区も非常に苦戦していたんですが、生活保護の方をホテルで居住できるようにしていただいて、それから労働者の皆さん、それから旅行者の方、１／３ずつ、というような形で非常にバランスの取れた形になりました。これからの動きですが、またそのバランスがだんだんと崩れていくだろうと。というのは生活保護の方が減って、それから労働者の方が減っていく。じゃあ、何が増えていくねんといったらやっぱり旅行者の方が増えていくと。萩之茶屋地区にもやはり旅行者の方が増えていっている。太子地区のまちが様変わりしたように、だんだんと萩之茶屋地区もそのようになってきています。西成の良いところは残しながら、そういうような変化はこれからも起こってくるんじゃないかなあと、そういう風に見ています。今度は萩之茶屋地区がそういう風になってできるように、行政の方も後押ししていただきたいと思います。太子地区の方はそれなりに力を持っているホテルが多いので、個人個人の資本で出来ています。ある意味、萩之茶屋地区は少し資本的に弱いところがあります。そういうところを見ていただきたいのと共に、行政のみなさんにも世界をやはり見ていただいて、こういうことをしたら、西成も世界に対抗できるんだなというような視野を持っていただけるようなことも一つお願いしたいなと、こういう風に思います。

○寺川准教授　ありがとうございます。では、最後に西口さんがお見えですので、町会とサポーティブハウスと、肩書きいっぱいの方です。いろいろな立場でこれまでの議論からなにかご意見はありますか。

○西口委員　今日は観光のことで話をさせてもらいます。私ら管理組合で、大阪国際ゲストハウス地域創出委員会（ＯＩＧ委員会）というものを作りまして、それで山田理事長も息子さんが帰ってこられて。その前に水内先生、松村先生と東アジアの野宿調査に行かせてもらったんです。要するに、安宿があって、野宿のある貧困層を支えているというのは、釜ヶ崎と全く一緒ですが、違うのは、海外ではその周りにうろうろいてるというのは、まあ、たとえば松村先生がおっしゃっている海外のチョンキンマンションなんかにも連れて行ってもらいました。で、帰ってきたときに山田理事長の息子さんと会って、これは何とかしなあかんよということで、ＯＩＧ委員会というのをつくって、一番最初に作った大阪の安い宿というパンフレットなんですけども、これは英語と日本語です。それと、中国語と日本語、ハングルと日本語というのを作ってそこから始めてきました。こんなに早く成長していくとは思っていなかったんですが、最初は大阪の安い宿と、東京の安い宿とをリンクしあったんですが、予約が入ったんですが、キャンセル続出でして、理由は若い人達が大阪で安い宿を見つけたと。どこと聞いて西成と聞くとですね、その時点でキャンセル。生きて帰ってこれんぞみたいなですね、言われ方をしました。それが、海外からいろんな方がこられるようになって、マスコミも協力していただいたんで、急成長に繋がっていったのかと思います。今となったら、日本の若い人の方がようさん来てくれている。やっぱり、思うのは野宿している方を一人ずつ、大事に大事に考えていった末には、地域の発展に繋がっていけるのかなと。それを実践していけるのはあいりん地域なんだと。西成の誇れるところかなと。そう思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。

○寺川准教授　はい、ありがとうございます。以上ですね、４人の方々にお話をいただきました。やはり、観光とかそういう話になりますと、新しい壁というか、今何かが動き出しているということが皆さんのお話からわかったと思いますね。ただ、一方で今地域が抱えている問題とか、今の住まいの問題ですね。ストックもあるんだけども、そのストックを活用するにしても、その質の問題をどうするか、マネジメントをどうするか、ある意味、大きな流れの中でのジェントリフィケーションというか、そのものがなくなっていって、新しいものに変わっていくと、そういう問題を抱えた方がおられますよね。それともう一つはあいりん地域ということと、周辺の密集市街地の問題、この地域が抱えた防災上の問題とか、住宅の密集問題とかを、ストックを使ってどう解決していくのかというのも重要なテーマになっているというのも実態だと思います。そういう意味では各専門部会の中でも、特に福祉とか環境、子育ての方でも、やはりそういう生活実態の中でどうしていくかという議論がなされておりますので、最終的には新しい風の話と、それから、地域が抱えている問題をどう解決するかということ。そして、新しい動きをどうつなげていくかということも、重要なテーマになっているかと思います。それでですね、皆さん会場の方にもお話を伺いたいのですが、少し情報として地域の案内板の話が少し出ていましたんで、柴生課長の方から実際どう動いているのか簡単にお話いただけますか。

○柴生西成区役所総合企画担当課長　柴生でございます。先ほど、松村先生のお話の中で、写真でご紹介いただいておりました案内板なんですけども、ライオンズクラブさんに寄贈いただく形の中でですね、中身については今宮工科高校の生徒さんにデザインをお願いして、中身については、松村先生なり、新今宮のまちづくり観光協議会のメンバーの方々からも色々とアドバイスをいただいて、どういうコンテンツを設けるのかとか、そうして出来たものが太子の交差点に出来ているんですけどもね。あの中身を活用してですね、これから、同じデザインを統一した形で、まちの中に案内板がたくさん出来ていったらいいんかなあと考えておりまして、具体的には建設局が、大阪市の中では道路の管理をしているんですけども、目的外使用ということで建設局の方になんとか道路の使用許可を取らせていただく中で、その場所に新今宮地区の観光まちづくり協議会さんの方でＪＲさんとか鉄道事業者さんにスポンサーになっていただく形で、ものができれば、場所の提供は大阪市の方で区役所が当面させていただく中で、進めていけたらいいんかなと思っております。そのときにもっと良いのは、案内板の中にちょっと広告が入ったり、その広告を入れることで、その費用をみてもらえると。そういう仕組みができればいいんですけども。公共として、場所を借りますんで、そこに商売めいたものができるかどうかということなんかがこれから課題になってくるんかなというところなんですけども、それはまた建設局の方にも協議がいるんですけども、なんかうまいことまわっていく仕組み作りのコーディネートを区役所側ができたらいいんかなと思っておりまして、それの第１号的にできたのが先ほどご紹介いただいた太子交差点の角の案内板やったんちゃうかなあと思います。色々やり方、手法はあると思いますんで、今後、積極的に議論をお願いしたいと。僕らは事務的に走り回るのが一番やと思っておりますので、精力的にご協力させていただく中で、まちに貢献できたらなあと考えています。

○寺川准教授　はい、ありがとうございます。今や区役所さんとも具体的なプロジェクトの中でどうしていくかということを、少しずつ、いくつかは前に進んでいるという状況だと思います。

では、時間になりましたので、会場の方からいくつかテーマを絞りまして、３つほどテーマを絞って、お話、質問等受付たいと思います。それを受けて、有識者の先生方、それから委員の方々、役所の方々もおられますので、それをテーマに議論を進めたいと思います。

では、一つめとして、観光関連で、特に商店街の空き店舗の活用など、松村先生の方からご説明がありましたけれども、それを中心にお話、質問等ありましたら、挙手お願いできますでしょうか。いかがでしょうか。はじめはなかなか言いにくいかも知れませんので、松村先生、少し言い足りないかと思いますので、逆にお願いできますか。

○松村教授　こちらばかり話すといけないかと思うんですけども、今、少し付け足させてもらってい

いですかね。先ほど、水内先生の方から、就労ビザもしくはワーキングホリデーに来られている外国人が西成区に住んでいるという報告がありましたけども、これは違法なことではなくて、ちゃんと正当な理由を持って住まれている方です。これから、大阪なり、日本が考えていかなあかんのは、先ほど交流人口といいましたけども、回転する人口、そこから、どう定着する人口に変えていくかということが実は鍵です。おそらく西成区でワーキングホリデーで滞在されている方は、これは聞き取りされたかどうかわかりませんけども、絶対にあいりんの簡宿に泊まった経験のある人やと思います。実は、こういう風にそこで一回経験して、よく状況がわかった上で、たぶんここに居住を定められていると理解しています。先ほど１２万泊ぐらいと言いましたけども、だいたい、お一人平均３泊か４泊なんで、実人数でいうと、３万人か４万人ですね。水内先生がおっしゃっていた報告やと、３００人から４００人の外国人が滞在していらっしゃるということになって、だいたい１００人に一人やと思うんですね。これぐらいの感じですでに外国人は動き始めていて、できたら、子育て世代を呼び込む際にも、まずは交流人口を増やさんことには話が始まらないですね。イメージだけで外から西成とはあんなところやこんなところやという話になると、多分ろくなイメージが湧いてこないと思います。本当に来ていただいて、泊まって、新世界やその他いろんなところを見ていただくと、イメージが変わっていく。それがまあ、僕らの思惑であると言う風に認識しております。

それと、例えば、今の話でも、台湾人の方が多いというのが僕は意外やったんですけども、大阪市、その他全国で進めていこうとしている話がありますね。例えば小学校中学校の英語の授業でネイティブの教員を増やそうとしていますね。ところが、あれをやろうとすると、とんでもない人数がいるわけですよね。それの就労ビザをみんな出すとなると大変なことになるんですよね。就労ビザ出して、２，３年経つともう常雇いにしなあかんようになってくるんで、実は一番良いのはワーキングホリデーなんですね。ワーキングホリデーで来日する外国人の人間性をチェックする仕組みを作って、就労と一緒に住宅も斡旋するようにすると、絶対住むんです。実はこれ、松原市で始めようとしているんですけども、松原市の学校などで英語になじむことが目的の授業なんかを、ワーキングホリデービザで来日した若者にお願いする。そうした若者を商店街の空き地にゲストハウスを作って住んでもらい、それで交流人口を増やして、交流から定着へつなげていこう、という話です。大阪市なんかは確かいくつかのモデル校で英語の教員を募集されたかと思うんですけども、多分月収３０万ぐらい出して、候補者を募ったけど、ハードルが高くてなかなか応募がなかったと思うんです。おそらく、この事業を本気でやりかけたら数千人の外国人が必要になると思うんで、そんなんも戦略的に雇用を生んで、交流人口増やして、定着するようなシステムを作ればいい話やと思うんですね。

そういうことに、空き地であるとか、西成区のいろんな資源を利活用してリノベーションするというのは良いことやと思います。こういうのって、先に考えて,対策打って、いろんな事に網はっとけへんかったら、引っかかってこん話やと思います。今、その兆候がすでに西成であるということはご理解いただきたいんです。先ほどの水内先生のゲストハウスの図を見ていても、西成のところに集積があるというのはやっぱりそういうちゃんと理由があるからです。

それと商店街の方も本当に色々変わると思うんですよね。そこだけなんです。私が思っているのは、先ほど村井さんがおっしゃっていたみたいに、今まである商店の方が、今まである歴史を踏まえながら、次に新たな方へ展開するのは大変なこと。だから、一店でいいから、敢えて閉まっているところを開けてと。そこに新しい流れを入れることで、次の流れを作っていこうというのが観光振興部会からの案なんですね。なかなか、中にいてる人間が変わりにくかったら、外の人間を入れるのが早い話で、外の人間が入りにくいハードルを、商店街の方も行政の方も、とにかくいろんな意味でハードルを下げて、入りやすい環境を作って、さあ来いという状況を生み出したいなというのが観光振興部会の議論やったんです。

○寺川准教授　みなさん、多分いろんなご意見もあるかと思いますので、ぜひ、ご意見出していただ

ければと思います。はい、どうぞ。

○山田委員　今、言いましたように年に約４０万人の方が来ています。４０万人の方が来られるというのは我々はホテルに泊める商売をしていますので、その方は必ず食べる、買うということをするわけです。そうすると、一人３０００円、となると、なんぼになりますかねえ。４０万人×３０００円となると、１２億ぐらいになるんですかねえ。１２億の金を使うとしたら、その１２億が西成で使っていただけるような事をしないと西成区としては、まずいかなと思います。オール大阪で考えると、そんなしょうもないこと考えなくてもいいやないかと、新世界があるんやから行ってもうたらいいやんというような話にもなりますが、そこをしっかり考えていただいて、西成区で火をつけるんなら、やはり商店街と区役所さん、もうちょっと頑張っていただいて、４０万人の方々が来ているということをなんとか生かしていただいて、もうこの１０年歯がゆい思いをずっとしてきているものがあります。

○寺川准教授　はい、ありがとうございました。はい、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○会場１　柳本です。まだしゃべるべきではないのかもしれませんけど、今の話をお聞きして、ちょっとご意見をお聞きしたいのですけども。確かにゲストハウス、簡宿系はいいと思うんですけども、私の地元なんかでも、いわゆる民家、長屋を活用したゲストハウスみたいなものもあります。決して違法就労ではないと思うんですけども、やはり文化の違いといいますか、夜も遅くまで騒いでいるとか、あるいは最近ぼや騒ぎがあったりとかですね、そういうことで、ジェントリフィケーションというよりはむしろ労働者と新しい層というのではなくて、むしろ外国人の方と昔から住んでおられる高齢者の方々とのいろんな課題がでてくるケースというのがあるんですね。逆にアートプロジェクトなんかですと、地域の方々を巻き込んでより取り込んだ形で盛り上げていただいているからいいんですけど。外国人の方々が入ってくるのは、私も大賛成ではあるんですけども、そういった一つ二つ何か課題があるとですね、受け入れることに対して、地域としては尻込みをすると思うんです。そういった意味でやはりそういうマイナスの一つ二つの事例を潰していくことこそが、これからたくさんの人々を受け入れていく地域をつくることにおいては非常に重要なことだと思うんです。こういった課題についてはどう対処したらいいんでしょうか。

○松村教授　ありがとうございます。本当にそれは、私も問題だと思っています。マンションとかでも、全部のマンションがゲストハウス機能をもっているといいんですけども、よくあるウィークリーマンションみたいに、普通の住人がいるなかで、一室だけ外国人が半年ごとに入れ替わるみたいなことになると問題やと思うんですね。こういうのって、やっぱり、モデルみたいな事例をちゃんと作って、こういうやり方が理想ですよ、地域とつなげる仕組みもありますよ、というのを考えいかないとだめですよね。決して悪い人やないと思うんです。ワーキングホリデーで来てはる人って、日本の旅行を楽しむことがやはり第一目的で、旅行を楽しみながら自分のお金を減らさないっていうための手法なんですね。だから、がっつり稼ぐというのは基本的にＮＧの方々なんで、逆に何を求めるかといいますと、さっきのアンケートにもありましたけど、日本人との交流であったりするわけです。だから、水内先生の報告書をみせていただくと、普通にゲストハウスの中に、ゲストハウスの方々が集うコミュニティのスペースはあるけども、外から来る人が立ち寄れるところであったり、ゲストハウスに住んでいる人が地域に出て行くという仕掛けが実はないんですよね。松原市で作ろうとしているのはそうではなくて、地元の人もそこに来て、たとえば英語を学べたり、住んでいる人の状況がわかる。逆にそこに住んでいる人も地元のところに出て行くような仕組み。いかに交流人口を段階的に定住人口に変えていくというプロセスの、いうたら、交流から定住に変わる一つ手前のところにゲストハウスってあると思うんですよ。そういうちゃんとモデルケースを作っていくべきだと思います。柳本さんのおっしゃるとおりだと思います。そりゃ、問題抱えているところは多々あると思うし、水内先生もそこらへん詳しく言えなかったと思うんです。

○会場１　僕が言いたいのはね、外国人の方から見たら、治安が悪いというような言われ方を一部されているんですね。それが実は、滞在している外国人が治安の悪さを増長するケースがあるんです

よね。まあ、それは多くの事例ではないと思うんですけどね。そういうケースがあったら、これからこういう国際化にですね、歯止めをかけてしまいかねないんで、そこで、はじめに良い成功事例を作っていく必要があるなと思うんです。

○松村教授　それもおっしゃるとおりです。私も観光まちづくりに関わってきて、何年か経ったんですけども、嬉しいのは太子地区に泊まっておられる外国人が犯罪に巻き込まれたり、犯罪をおこすという事が本当になかったんです。それが今まで上手いこといってきた理由の、大きな理由の一つやと思うんです。今生まれている、水内先生がおっしゃられている定住に近い形に移行しているゲストハウスの方でも、それは本当に警戒するというよりも見守りながら、事業者もそのへんを上手くコントロールしながらいけへんかったら、先のない話やと思うんですよね。わけのわからんゲストハウスで変なことしてたり、犯罪が起きたりすると、いっぺんに流れが変わります。そのへんは不動産業者の方々にも自覚していただきたいし、そういう流れを上手いこと利用して、監督するのも行政の役割やと思います。決して潰してしまえばいい話ではない。むしろ将来のことを考えたら、今は外国人の話で進んでいる話ですけども、日本人にも適用というか、そういう事例は出てくると思うんで、それも含めて、交流人口から定住人口に移る間の段階として、コミュニティとの取り次ぎ方というのもこれから経験として蓄積していかなあかんと思うんで、柳本さんのおっしゃるとおり、皆さんよく考えないといけないことだと思います。

○水内教授　補足させていただきますけども、山王の方にもこういうケースがたくさんありまして、僕、ちょっと今回その調査はしておりませんけども、つくづく感じることは二点ほどあるんですけども、まず１点目は滞在型と言いつつですね、短期、本当に賃貸契約結んだあくる日に出て行かれるような人もおられるし、実態はウィークリー的に使うと、ちょっとこれ違法なんで、その辺の法をきちっと守っていただけるようなモラルといいますか、必要だと思います。ただ、現実、すぐに出て行かれるような外国人もおられるようなので、なかなか滞在型で法を守って、アパートとして成り立つというのは、モラルが必要だと私は思います。

もう一点は中国人の方のゲストハウスで火事を出したとか、ごみの捨て方が悪いということに関して、住民がそう言っておられると、そこに外国人と住民との直接的な対立を生み出しがちなんですけども、そこに入る、寺川先生が言っておられたマネジメントするような、不動産屋さんには、間に入って介在していただいて、いろんな意味で通訳していただいています。そういう利害関係があるのを押さえている方々が、簡宿さんというのはそうやと思うんですけどね、管理人さんとか、経営者の方が、地域の言葉をこう通訳してあげる、そういう地域のマネジメントできるようなアクターが現におられますから、そういう方が色々と動きやすいような組織、そういう仕組み作りがいるなあと。そういう方がいないとやっぱり地域のダイレクトな軋轢で、本当に住民同士のにらみ合いとか起こってきますから、間に入る方々を、役所の方でも、我々の方でもきちっと何かの組織で動かしていけるようなものがあればいいなと思います。

○会場２　はい。

○寺川准教授　はい、どうぞ。

○会場２　今までのお話で、地域の人と上手く結ぶことを考えないといかんわねえ。外国からいっぱいお客さんが来て、地元にお金が落ちてくる。だからそこだけ注意すればいいよねというね。非常に良いお話で、なかなか先は明るいなあとか思っておったりしているんですけども、一つには量の問題があると思うんです。何十万人泊まったよ、それが６年後のオリンピックですか、その時には３倍になるよ、じゃあ、７年後にはどうなるんです。万博の時までいっぱい仕事があったけども、万博が終わったら釜の人間はどんどんあぶれ人間になってしまった。観光客がいっぱいお金を落とす、釜の歴史から言えば、日雇い労働者も、年間何億と外からお金を持ってきて、地域周辺にお金をばらまいた。それで、何か今は問題だけが残った。観光だけで全てが上手くいくのか、まあそりゃあ上手くいったほうが良いんですよ。私もそう思いますが、賑やかになることは良いことなんです。それはそうなんですけども。そうはならない影響圏外というのもあの地域にあるわけなんです

ね。あの地域の周辺にあるのは、柳本さんがおっしゃったように高齢化して、１０年経ったらもう住民がいないような町並みかもしれない。そういう町並みのところへ観光客がいっぱい来て、そこの再開発って、じゃあ、簡宿とか、ホテルをいっぱい建てて、ホテル街にして、なんぼ世界から来た人がいっぱい増えても、日本の人口に比べたら、そのへんの見通しを立てて観光だけでそこまではいけますよ、そこ以外のことは、まあ他にも部会があるでしょうから、今は景気のいい話だけさせてくださいねということならば得心は出来なくもないですけども、そういう観光で外国のお客さんが来るけれども、尚、高齢の住民の人がおる。すべてのお店、商店街の人も悩んでいると思うんです。観光客向けにして、商売が成り立つのか、それでも周辺の人口が減っていけば、やっぱり閑散になるに決まっているんですよ。お客さんがいないんじゃ。一つの店だけぽんぽんぽんぽん飛び火のように外国人向けのお店があって他の店は潰れるということです。で、こうやってそういう政策だけやっていると、今度は高齢者の買い物難民や、介護の問題が出てくる。そういうものと観光の話とはあの地域でぶつかってくる時が、何年後かにはあるはずなんです。そういう問題の整理は今日は観光の話ですから、分けて景気のいい話だけしてもいいんでしょうが、何となくね、そういうものとのバランスの上で観光政策、行き交う人が介護のために停留するんだという話、まあそうはなれへんとは思うんやけども。そういう形で、じゃあ、あと何件の簡宿を再転業させるのか。今、アパート、マンション貸したところで、７０歳、８０歳になって、認知症問題も、介護の問題も厳しくなってくる。そういう人達の行き場がどういう風に確保されるのか。簡宿の中には一つの選択肢として、ベッドで生活する人だけに特化したものが一件だけ私、存じ上げていますけども、そういうものがないと、あの地域の人口密集度をみると、高齢問題として耐えられない。誰がやるのか、今まで商売として儲けたお客さんの余生は商売人には関係ないやろうと、新しい観光客にくらいつけ。そういう話で本当にまちづくりと言えるのか。というところも広い、長いスパンでちょっと考えていただきたい。

○寺川准教授　はい。ありがとうございました。

○松村教授　今のお話、まさにありがたいお話で、昨年からずっと議論しているのは、観光でいくエリアのゾーニングをお願いしているわけです。別に山王１丁目２丁目の住宅街をホテル街にせよとか、一切言ったことはありません。太子１丁目の元々ホテルがあったところを元の機能に戻してくださいということを、元々労働者が使っていた簡宿、宿泊施設として使っていた簡宿が福祉マンション化していっている。そういうところを、もう一度簡宿にして、外来人口、交流人口を呼び込むようにしようという話なんです。高齢者が住まれている住宅街にホテルを建てて、そこに観光客を送り込んで、高齢者が住んでいるのを見て回れとは一切言ってません。むしろゾーニングをしっかりしてくださいと僕は大阪市にお願いしてきたと記憶しています。

　あと、もう一つ、まちづくりで大事なのは、わざわざここに来てもらうってこと、集めるってことになるとしんどいんですね。今、通天閣はやっぱり人を集めてますし、あいりん地域の場合は一部の簡宿がやっぱり観光客を、外来の交流人口を呼んでいる。その機能が廃れると、交流が起これへんわけですから、どんどん老いていくと思うんですね。だから、松繁さんがおっしゃるように、まさにゾーニングをしっかりして、高齢者の問題が大事なところは高齢者の問題を考えなあかんし、観光でいかなあかんところは観光でいかなあかんし、その地域の機能の部分をもういっぺんしっかり確認すべきやと私は思っています。大阪市にも訴えていきたいと思います。

○西口委員　いや、松繁さん、今日は観光というのがメインにあるんで。観光のことも、高齢者のことも、労働者のことも拡大会議でみな取り上げているんです。拡大会議のメンバーは協議会の代表であったりとか、いろんな支援している方であったりとか、そういう中での観光という話であったりとか、高齢者の話であったりとかでやってるんで、一応バランスは考えて動いているつもりでおりますんで、また、ゆっくり見てご意見ください。

○寺川准教授　ありがとうございました。今の、松繁さんの話は僕なんかは非常に貴重な意見だと思っています、やはりね、まちが変わるはずですよね。今の高齢者の方々が次にどうなっていくかと

いう。今思っている観光っていうきっかけをどうするかという話と、将来、１０年後、２０年後のまちの姿をどう見るかというのはかなりセットだと思うんですね。今あるストックを使うっていうのも、１００年使うのか、５０年使うのか、５年なのかというところで、だいぶその使い方というのも変わってくると思うので、今のご意見もそうですが、まちづくりの中で時間のデザインをどうしていくかということが大きなテーマだろうなと思いました。鈴木先生お見えになるので、ここで、全体の話を聞きましょう。

○鈴木顧問　私ちょっと観光のことはよくわからないものですから、なんなんですけども、私は松繁さんの方に近い福祉の方の立場なんですけども、やはり、今おっしゃっていた、まさに時間軸なんですよね。観光に合わせて使える資源を取り込むというのはすごく大事なことなんですけども、やっぱり出口戦略といいますかね。ここにいる高齢者がいずれ必要なホスピスとかね、まあ、そういう風なものが必要になってくるわけです。その意味で、現在の山谷は非常に近いモデルになってくると思うんですけども、山谷は釜ヶ崎よりもさらに１０年ほど平均年齢が高いので、ホスピスとか重度要介護者が利用する施設とかがずいぶん出てきました。ただ、もはや、それも利用者がお亡くなりになって、だんだんそういうものもなくなってきてる状態です。経済活性化のエンジンとして、観光とか商業とかをこの地区が取り込むべきことは確かですが、一方で取り込んだときに、今まであったものをどのように退出させるか、無理のないようにスムーズに出口に導くかということが重要です。こういうものは、ずっと続くわけではないので、その過渡期としてホスピスや要介護者用施設がいるだろうとか、そういうものもまちづくりのなかで一緒に考えていかないといけないと思いました。

○寺川准教授　はい、ありがとうございます。それではテーマが変わっても結構ですので、意見を言いたいという方、おられましたら。はい、どうぞ。

○会場３　あの、すばらしいアイデアだと思うんですけども、疑問に思うのは結局お金がないと何もできないわけじゃないですか。で、行政からの補助金も限られていると思うんですよ。となると、例えばファンドを作るなりして、外国人観光客を呼び込むのも良いんですけども、外国人の投資家に売り込む戦略というのは考えてらっしゃるのかなと思ったんですけども。

○寺川准教授　今の話、外国人の投資家の話ですが、おそらくエリアマネジメント協議会のなかでも、重要なテーマになっておるのが、地域でいかにコミュニティ事業を興すか、やはりその事業を持続的にするためにいわゆる補助金とかですね、そのようなお金で事業を動かしていくのではなくて、地域が、そのコミュニティ自身がその事業をちゃんとまわしていけるような、そういうマネジメントシステムがいるんじゃないかということで、現在、そういう組織とか仕組みが出来つつあります。これはおそらく来年度には具体化できると思いますが、まさにご提案の件は大事ですね。お金がないと、事業の資金と、事業の仕組みと、人材とをどうコーディネートするかということが重要なテーマとなっておりそれが今、できつつあるというようになっております。

○会場３　僕は天王寺区民なんですけども、天王寺区民の人間が、例えば劇場の話が出ましたけど、そういうのに出資というか、バンクというか、そういうものをしていきたいなあという気もするんです。そういう動きというか窓口みたいなものはあるんでしょうか。

○寺川准教授　今、それをエリアマネジメント協議会のなかでも、マネジメント組織を作ろうとしているので、まさにファンドの話も出て来ております。

○会場３　あ、そうですか。わかりました。

○寺川准教授　えっと、それでですね、まだもう少し時間があるんですが、どうしましょう。区長、最後にお話を。あ、すみません。

○会場４　話がずれていたら申し訳ないんですけども、大きなお金の話もあって、まあ、今やれる資源の中でやっていこうというところで考えると、銭湯ですね、日本文化に触れたい方が、ちょっとディープな地域に滞在しているということなんで、銭湯の活用なんかは上手くできないかなあと思うんですけども、どうでしょうか。

○松村教授　ありがとうございます。大事なのは地域資源と外来者をつなぐ仕組みなんですよね。それが、なかなかね、普通つなげようと思ってもつながらないんです。しかし、西成にはつなぎやすいところが１カ所あります。ホテルに泊まられている場合は、ホテルに泊まられている方にその情報を投げれば、行く可能性があるんです。私ら、以前に新世界・西成の食べ歩きマップつくったんですけども、このマップを梅田のまちかどで配っても誰も反応しませんけども、ホテルのフロントで配って、みんな寝ながら見ていると、「あ、いこか」となるんです。そういう銭湯に限らず、いろんないい地域資源が西成にはあります。ＯＳ劇場であるとか、ああいう劇場もみんなそうなんですけども、宿泊している施設と上手いこと組んで、情報を投げたら、絶対に行く人がいてます。むしろそういう地域資源があるのが西成の魅力の一つやと思うんですよ。だから、そういう情報をできるだけみんなで集めて、磨いて、日本語で発信してもなかなかわからへんので、英語とか、中国語、韓国語で発信しましょうよ。柳本さんがおっしゃったみたいにそれが地域に取って迷惑にならないように。銭湯行っていきなり服のまま入られたら困るので、その辺のマナーとかもきっちりと指南した上で、地域資源とつなげるという活動が必要やと思うんです。そういう風な地域資源の情報があれば、是非、僕ら観光のメンバーと組んで、地域のゲストハウスとかにつなげる、つなげる仕組みはもうありますので、あとはコンテンツを投げていただければ、それを多言語化して、ということですね。コンテンツをぜひ投げていただいて、実は銭湯の地図が出来たというのも存じ上げています。あれはたぶんね、外国人好きですよ。１００人おったら１００人好きとはいいません。１００人おって、一人か二人が好きでも、それが１２万人おったら、割に良い顧客になるんです。それがまた日本の魅力の発信にもなると思うんで、ぜひそういうコンテンツを投げていただいて、それを磨いて、発信していきたいと思います。

○柴生西成区役所総合企画担当課長　銭湯といいますと、この場所で昨年銭湯セミナーというイベントをやりまして、一応国内向けと言いますか、一般の方を募集して、８０人ぐらい来はったんですけども、西成の公衆浴場組合さんにご協力いただきまして、今まさにお話がありました銭湯マップというのを作りました。それはこれから増刷させていただいて、簡宿さんのほうにご協力いただければ、置いていただくようなことも考えてございまして、ただ、ちょっとまだ外国語対応できていないので、今後バージョンアップして外国語対応することと、大事なのは、先ほど繋ぐことやとおっしゃったんですけども、実際に銭湯の経営者の方ご自身がですね、まだ、外国人をたくさん受け入れる準備がこれからやと思いますんで、やっと今、銭湯組合さんを通じて、銭湯の経営者の方に、ただ単に今まで地域の方たちだけに商売をされていた方がですね、地域外からお客さんを呼べるんやでと、銭湯の文化というのは非常に魅力がありますんで、ただ、日本人に限らず、外国人に限らず、愛好いただけたらいいかなと思っております。それからまた、組合さんの方と、私ら役所がいろんなところをつなぎ合わせる、そんな仕事をしていきたいと思っておりますんで、そういうコンテンツづくりというのもこれからやっていきたいと思っております。銭湯セミナーの件はですね、実は西成区役所のホームページでもその日の模様とその時作りました銭湯マップをＰＤＦでダウンロードできるようにさせていただいておりますので、ご覧いただければと思います。よろしくお願いします。ありがとうございます。

○寺川准教授　はい、ありがとうございます。最後一つほど、質問を受けて終わろうかなと思います。はい。

○会場５　食べ物マップということで、おっしゃられたんですけどもね、この近辺の行政区、例えば住吉区なんか、去年かな。７回目になるんやけど、すみ博というのをやられているんですよね。住吉の地図と一緒にね、近辺のお店、食べ物屋さんの案内を出してはるんですね。あと、今、冬やから、大正区でおそらく名前考えたん僕ぐらいの歳の人やと思うんやけど、地域が大正ということでね、あんたが大正鍋というネーミングでパンフレットを出している。中身は別に大正区の鍋じゃなくて、ごく普通のお店屋さんで売っている鍋をね、いくつか並べているだけであってね、別に大正区の鍋でもなんでもない。普通の鍋をね、ただ、ネーミング的にね、あんたが大将というのは武田

鉄矢かな、よく出ているんやけど、そういうのをちょっと引用したりね。してはるんやけど。そういう西成でもね、古くからあるお店、食べ物屋さんがあると思うんです。で、今度、もうしてはるんかな、天六にある住宅のなんとかっていう。

○寺川准教授　住まいまちづくりセンターですか。

○会場５　ああ、住まい。あそこでね、昭和の懐かしい展示なんかがされてる中でね、おそらく西成のお仕事のところやと思うんやけどね、型抜きをね、一枚５０円でやってはってね、上手に出来たら何かいただけるみたいなんですけどね。そういう西成にあるね、お店屋さんとかね、大いに活用、これが資源やと思うんです。わざわざ外国人だけでなくてね、日本人でもね、大阪の人でもね、西成に来れるようなそういう施策が充分できるんじゃないかなあと思っています。今言ったのもね、別に英語でもなく、日本語ばっかりですわ。書いてるの。はい。

○寺川准教授　はい、ありがとうございます。

○柴生西成区役所総合企画担当課長　ご意見いただいた中にあったすみ博のような割と大きな規模というのはなかなかうちらでできていないんですけども、お店の紹介なんて言うのも、賛否両論はあるんですけども、去年西成区役所の中に、ぼちぼちいこ課というグループを立ち上げまして、若手の職員が中心になりまして、まちのおいしいお店なんかを紹介させていただく活動をさせていただいているんです。

それと、これはまったく区役所はかまずに、純粋に民間でやった動きでですね、この間、３１日と１日の金曜土曜の二日間で、「オリ天バル」という名前のイベントを民間の方に有志でやっていただいてまして、「オリ天バル」というのは、電車下りて、天下茶屋でバルしましょうということなんですけども、２０店舗強ぐらいのお店が参加されて、この中にもですね、うちの区長も行ってますし、区の職員も何人も行ってましたし、多分会場の中におられる方も、行って交流しはって、フェイスブックとかですね、色々ご紹介いただいているのを聞きましたし、それであの民間での動きでもそういうのがあり、バルというのは、長居でやってはったりとか、昭和町でやってはったりとか、いろんなところでやっておったのが、やっと西成でもそういうのが動きつつあるなあというところがあって。今まで、なかなかそういう動きさえ出てこなかった部分があったと思うんですけども、これはちょっと僕らがやっているからではなくて、まちの方が色々ご努力いただいているからやと思うんですけども、そういう民間の動きも出てますし、あと、そういう古い型抜きとかですね、僕、最近言わせてもらっているんですけども、地域のグルメといいますか、たこ焼きもそうですし、ヒシ梅ソースもそうですし、型抜きもそうですし、モロッコヨーグルもそうですし、西成が誇る非常に庶民に根付いた文化やと思うんです。その辺をぜひ色々発信していきたいんで、国内の人向けにも楽しめる発信をしていけるコンテンツを集めたいと思っています。

あと、これから力を入れようと思っているのが、紙芝居なんです。塩崎おとぎ紙芝居博物館さんの方とタイアップさせていただいて、それから水内先生に色々お願いしているんですけども、出城の社会福祉情報センターで、西成アーカイブというのを去年からやっています。その中で、本当に西成の大事なコンテンツである街頭紙芝居の原画をデジタル化する事業をこれからさせていただく予定をしております。これからの話なんでね、地域の歴史とか文化というのも当然情報として発信していきながら、国内向けにもこれからも楽しんでいただけるように区役所としてはなんとか繋いでいきたいと考えております。

○寺川准教授　はい、ありがとうございます。なかなか熱い言葉で、がんばりますということで、いろんな事をやっておられるようですね。柴生課長には最後にまとめのお話をしていただこうと思っておったのですが、だいぶ話してくださったので。では、ここで区長に今までの議論を聞いていただきまして、色々ご意見いただけますでしょうか。

○臣永西成区長　本当にたくさんの貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございます。まだ、当面、表に出ていないものも含めてですね、取り組んでいるものもたくさんございますし、先ほど、上田さんから劇場という話をいただきましたけども、子ども達の遊び方というのは、プレーパーク

の中の要素の一つとして、劇場というのもあったらいいなあという気もしています。そして、一昨日の土曜日にあまちゃんのテーマソングを作曲した大友さんが来られて、区民センターで子ども達と、柴生課長も入って即席でアンサンブルをやるというのをやってくれまして、本当にあの、演劇、芝居っていう要素もそれから音楽っていう要素も大変大事だと思っています。そういう包括的な取り組みで、プレーパークもやりたいんですが、それはまあ、プレーパークのときの話として、今日はその西成区を新しく変えていくような牽引のある力としての観光ということで、大変先生方には貴重な講演をいただき、また会場からも非常に熱心なお話をいただきました。また、部会で専門的な話を重ねて、トータルで西成特区構想が花開いていくような取り組みにしていきたいと思っておりますし、本当に今年というか、２６年度は正念場になるなと気持ちも新たに取り組んでいきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

○寺川准教授　はい、ありがとうございました。今回のシンポジウム、地域資源活用、観光振興部会ということで、基調講演から始まりまして、みなさんおつきあいいただきましてありがとうございました。

いろんなお話が出てまいりました。いろんなキーワードも出ましたよね。交流から定住へとか、外から中を繋ぐ仕組みであるとか、時間のデザインとか、それから影響圏外とかいう話も出てきたと思いますが、やはり元気になる仕組み、チャレンジの仕組み、今あるものをどう活用しながらどう地域の魅力をもう一度作り上げていくか、外の人も、内の人も地域の中でどう繋いでいくか、どう事業としてマネジメントしていくか、そしてその仕組みみたいなものをこれから具体的に考えていかないといけない。そういう状況になっていくのかなあと思いました。今起こっている大きな流れを時間軸でデザインしていきながら、次のまちに向けて、どう展開するかということが求められるだろうと思いました。全体をまとめるには今年はまだ１年目ですので、２年目、３年目になり、具体化していくかと思います。

これから他の専門部会の、特に環境・福祉でありますとか、それからこども・子育てというテーマもあります。これらの課題とかテーマも今の観光とか地域資源とつなぎ合わせながら、エリアマネジメントをどうするか、その仕方を具体的にどう構築していくかと言うことになっていくと思いますので、ぜひみなさんにもこれからも御参画いただいて、ご協力いただきながら、この動きが上手くいくことをお手伝いいただければと思います。それでは司会の方にお返しします。

○司会　熱い意見交換どうもありがとうございました。また、長時間ありがとうございました。最後に区役所の方からご案内として、木・金曜日にもシンポジウムがございますので、その案内を含めてお願い致します。

○柴生西成区役所総合企画担当課長　どうも長時間ありがとうございました。では業務連絡を含めまして、最後にご挨拶させていただきたいと思います。本日の模様は動画でも撮影しておりますし、会議録の方も後日、区役所の方でホームページにアップさせていただこうと思っております。それからあと、解説いただく中で、スライドで正面に出しました、スライドの方もこれも合わせて後日ホームページの方に載せますんで、ご覧いただければと思います。

それから、お越しいただいたときに、アンケートをお配りさせていただいたと思います。アンケートを帰りに回収箱を表の方に用意しておりますのでご協力よろしくお願い致します。それから、最後に、今日参加していただきましたパネリストの上田さんが主催されております釜ヶ先芸術大学の催し物が２月１６日に成果発表会としてあるということなんで、チラシを若干持ってきていただいておりますので、これも出口の方に置いてございますので、ご興味ある方、持って帰っていただければと思っております。

本日お聞かせいただいた貴重なご意見は、今後生かせていきたいと思っておりますので、色々今後とも、西成特区構想推進にあたりまして、地域の方のお声を大事にしながらやっていきたいと思っておりますので、これからも引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本日は誠にありがとうございました。これにて終了させていただきます。どうもありがとうございました。

参加者アンケート

シンポジウムでは、パネルディスカッション方式で会場参加者との幅広い意見交換を行い、加えて、下記のアンケート調査を行った。

アンケート結果からは、地域資源活用専門部会に関する意見では、「未利用地の活用」についての興味が最も高く、「地域不動産の現況」についての興味が高かった。

平成２６年２月３日（月）「観光振興・地域資源活用について」

西成特区構想テーマ別シンポジウムアンケート

本日は、「西成特区構想テーマ別シンポジウム」にご参加いただきありがとうございました。
今後の参考とさせていただくため、アンケートにご協力お願いいたします。

1．性別　（ 男 性 ・ 女 性 ）

2．年齢　（ 70 歳以上 ・ 60 歳代 ・ 50 歳代 ・ 40 歳代 / 30 歳代 ・ 20 歳代 ・ 19 歳以下 ）

3．お住まい（ 西成区 ・ 大阪市(西成区を除く) ・ 大阪府(大阪市を除く) ・ 大阪府外 ）

4．下記の内容について、関心の高い内容に○をつけて下さい。（複数回答可）

①屋台村構想	②バスターミナル構想	③商店街の活用
④簡宿の活用	⑤アートプロジェクト	⑥案内板の設置
⑦未利用地の活用	⑧ゲストハウス	⑨地域不動産の現状

その他、関心の高い内容があればご記入下さい　（＿＿＿＿＿＿、＿＿＿＿＿＿、＿＿＿＿＿＿）

5．その他　ご意見等ございましたらご記入ください。

ご協力ありがとうございました。お帰りの際、アンケート回収ボックスにお入れ下さい。
※書ききれない場合は裏面に記載してください。